

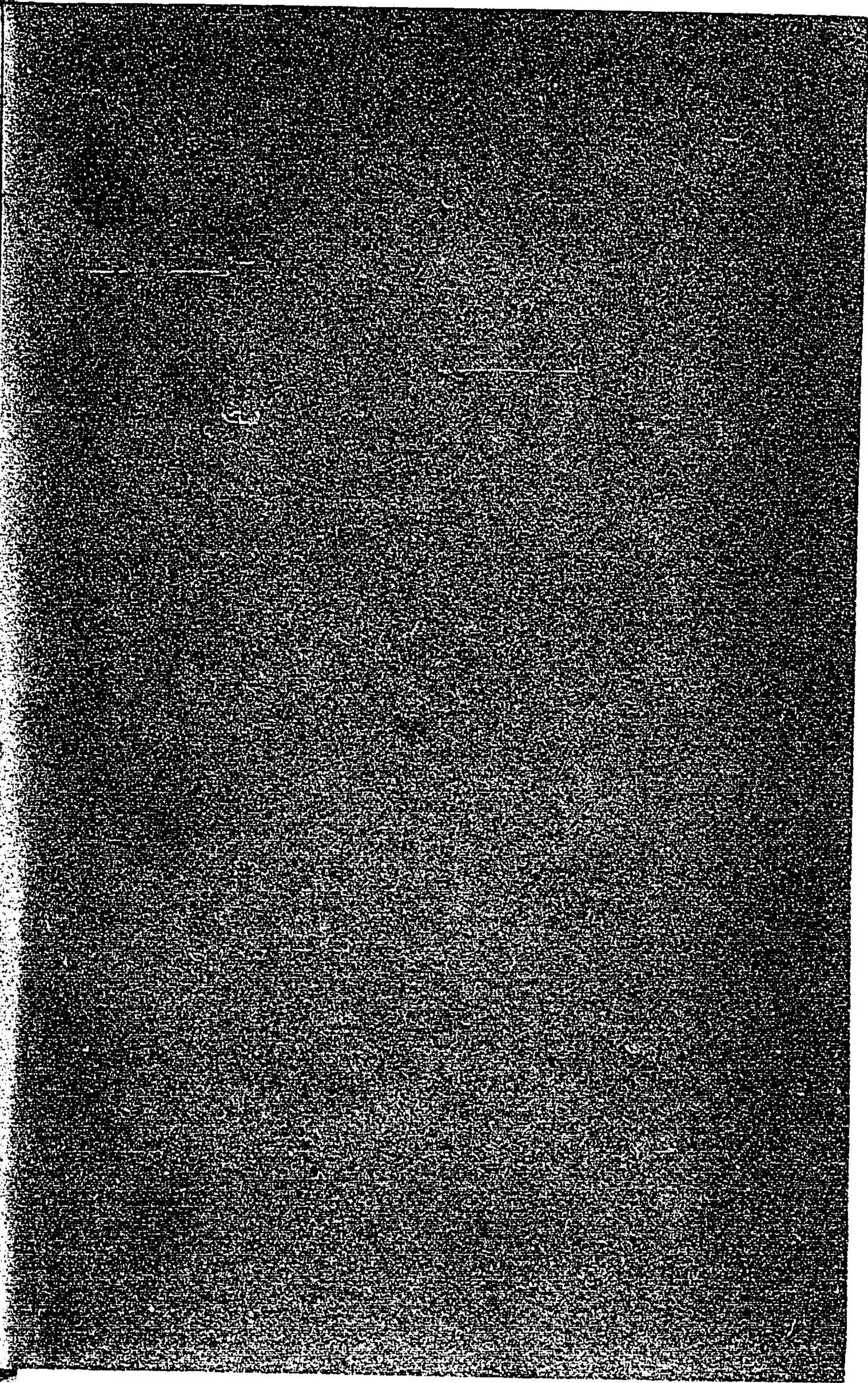
33-182

明治二十二年二月七日

明治十五年七月

代教會史

天百廿二年 正教會



初代教會史目錄

第一編 使徒時代ノ基督教會ノ運命

第一分類 イエルサリムノ情勢

第一 マトファイイカ猶大ノ代ニ選舉セラレ、

第二 五旬節ニ至リ聖神使徒ニ降臨セシ、

彼得始テ傳教スル、

○彼得ノ傳教ニ因テ三

千人ノ門徒教會ニ加入スル、

第三 跛者治愈ノ、

○彼得復テ傳教ノ信者五千人
ニ至ル、

第四 議會ニ對シ諸使徒耶穌ノ事ヲ証メ屈撓セサ

ル₁○信者一心ノ₁

第五 アナニヤ及サプロラ怪死ノ₁

第六 諸使徒奇蹟ヲ行フ₁○諸使徒獄ニ繫カル₁

○奇蹟囚ヲ脱セシ₁○諸使徒基督ノ爲メニ

苦難ヲ甘受スル₁

第七 補祭七人ヲ選舉スル₁

第八 第一ノ致命者ステファンノ₁

第二分類 パレステナ及シリヤ外ノ猶太地ノ景況

第一 イエルサリムニ於テ教會窘逐ヲ受ル₁○基

督ノ門徒離散ノ₁

第二 ヒリップサマリヤ人ニ洗禮ヲ授ル₁○彼得及

伊望サマリヤ人ニ聖神ヲ降ス₁

第三 ヒリップエピタプノ大臣ヲ歸教セシムル₁

第四 サウルダマスクノ路ニ於テ歸教スル₁○サ

ウルダマスキニ於テ傳教スル₁○イエルサ

リムニ於テ諸使徒ト會スル₁

第五 使徒彼得病者エネーヲ醫スル₁○ダワイハチ

復活スル₁

第三分類 ケサリヤ及アンテオヒヤノ異教人ノ景況

第一 彼得百夫長コルナリイ及其全家ニ洗禮ヲ授

シル

第二 アンテオヒヤニ於テ異教人歸教スルヲ○ハ
リステアニンノ名稱ノ

第四分類

イロト、アクリッパ、基督教會ヲ窘逐スルヲ○イ
ロト、ゼワエデイノ子イヤコフヲ殺スヲ○彼得
獄ニ繫カルヲ○神使彼得ヲ脱セ使ムルヲ○
窘逐者天譴ヲ蒙ムルヲ

第五分類聖使徒保羅ノ功績

第一 聖使徒パウエルワルナワト共ニキブル及小亞
細亞ニ第一ノ旅行ヲナス

第二 保羅イエルサリムノ使徒公會ニ參スル

第三 保羅、西拉ト與ニマゲトニヤ及グレチヤ地方
ニ第二ノ旅行ヲナス

第四 使徒保羅第三ノ旅行ヲナシテ囚繫セシレロ
ーマニ赴ク

第五 聖保羅ローマニ旅行スル

第六 聖保羅第六ノ旅行ヲナス及ローマニ於テ
致命スル

第六分類他ノ諸使徒及聖神ニ感シタル基督教ノ傳道
者ノ功績

- 第一 西門彼得ノ功績
 - 第二 安得烈、ペルワサス、ワンスイノ功績
 - 第三 神學者伊望ノ功績(ドミチアノ審逐)
 - 第四 アルフェイノ子イヤコフノ功績
 - 第五 ヒリッブ、ワルホロノイ、フヨマ、マトフェイ、シモン、シロト
イヤコフノ兄弟イウダ及マトヒイノ功績
 - 第六 七十徒ノ一人ハツデーノ功績
 - 第七 福音者マルク及ルカノ功績(神母ノ聖像)
- 第二編 基督新約教會ノ聖書
- 第一 馬太ノ福音經

- 第二 馬可ノ福音經
 - 第三 福音者路加ノ著シタル福音經及使徒行傳
 - 第四 使徒イヤコフノ公書
 - 第五 使徒保羅ノ書札
- 甲第一 囚前ニ書スル者
- 第一 フエサロニカ人ニ達スル前書
 - 第二 フエサロニカ人ニ達スル後書
 - 第三 ガラデヤ人ニ達スル書
 - 第四 コリンブ人ニ達スル前書
 - 第五 コリンブ人ニ達スル後書

- 第六 ローマ人ニ達スル書
- 乙第二 ローマノ第一囚中ニ書スル者
- 第七 ヒリツブ人ニ達スル書
- 第八 エヘス人ニ達スル書
- 第九 コロス人ニ達スル書
- 第十 ヒリモンニ達スル書
- 丙第三 囚後ニ書スル者
- 第十一 エウレノ人ニ達スル書
- 第十二 テトニ達スル書
- 第十三 テモフェイニ達スル前書

- 丁第四 最後ノ囚繫ノ時ローマニ於テ書スル者
- 第十四 テモフェイニ達スル後書
- 第六 使徒彼得ノ公書
- 第七 使徒猶大ノ公書
- 第八 使徒神學者伊望ノ書札
- 第三編 神ノイエルサリム城ヲ審判スルヲ
- 第一 神ノイエルサリム城ノ審判ヲ預定スルヲ
- 第二 イエルサリム滅亡ノ前兆
- 第三 イウデヤ戦争ノ源因
- 第四 イウテヤ戦争ノ實況

第五

イエルサリム城中大ニ飢餓ニ苦シム

第六

都城陥ルヲ○禮拜堂焚燬スルヲ○勝者慶賀

ノ

初代教會史

第一編 使徒時代ノハリストス教會ノ運命

イエルサリムノ情勢

トファイガイウダノ代リニ選舉セラル、事

實一ノ十三ヨリ二十六迄

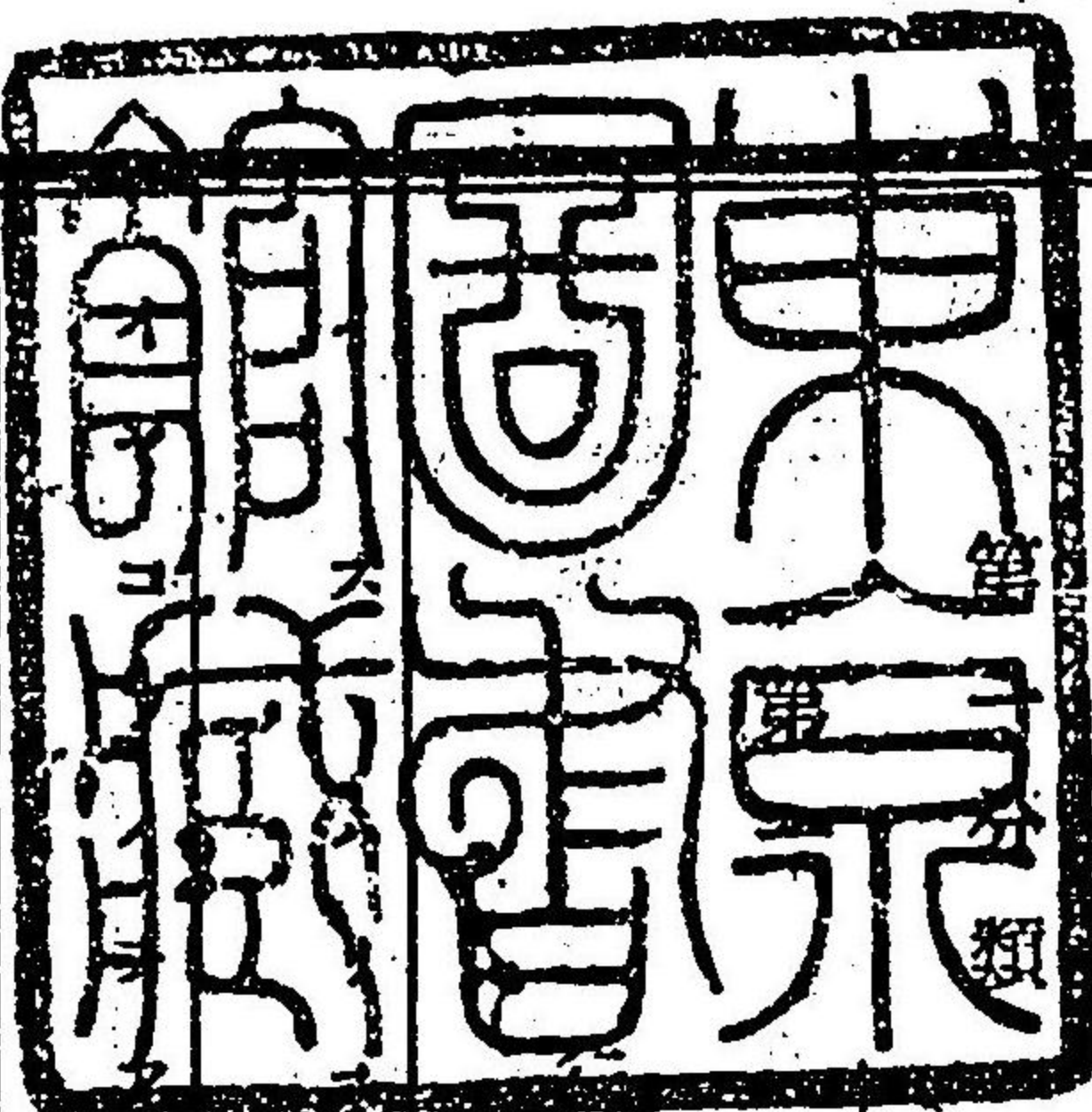
トス昇天ノ後使徒ペートルゼウエダイノ子

ンアンドレイフリツアフマワルフラロメイ

マトフェイアルフェイノ子イヤコフシロトト云ヘルシモンイ

ヤコフノ兄弟イウダノ十一人ハ常ニイエルサリム神殿ノ

一室ニ集リ聖母マリヤ及ヒイ、ス、ノ兄弟并ニ他ノ數婦



ト共ニ一心祈禱ヲ行ヒ信者モ毎日來テ相共ニ聖務ニ從事
シタリシガ一日集ル者百二十人ノ多キニ至レリペートル
門徒ノ前ニ立テ言テ曰ク兄弟ヤ聖神ハ曾テダワイードノ口
ヲ藉リテイ、ス、ヲ執フル先導者イウダノ事ヲ預言セリ
其事載セテ聖書ニアリ此言今宜シク應スヘキ也蓋シイウ
ダハ我儕ノ中ニアリテ共ニ我カ務ヲ同ウスヘキ者也而ル
ニ不義ノ價ヲ以テ田ヲ購ハント欲セシニ身倒レ腹裂ケテ
其腸尽ク流出シタリ是事既ニイエルサリム人ノ皆能ク知
ル所也而シテ詩篇ニ錄スルアリ彼ノ家ハ空虚トナリテ人ノ
之ニ住スル者無ルベシト詩篇六八又錄スルアリ彼ノ職ハ

他人之ニ任ズベシト詩篇百八故ニ主イ、ス、我儕ノ間ニ
アリシ時即イテアン授洗ノ始メヨリ主カ我儕ニ別レテ昇
天スルノ日ニ至ルマテ終始我儕ト共ニ在ル者一人ヲ撰舉
シ我儕ト與ニイ、ス、復活ノ證ヲ爲スヘシト是ニ於テ衆
ハワルナワ又ハイウスト(義人ノ義)ト稱スルイナシフトマ
ト、ツイトノ二人ヲ選舉シ因テ祈禱ノ曰ク主ヤ爾ハ能ク衆
ノ心ヲ識ル者也爾ハ此二人ノ中誰ヲ選テイウダノ後職ニ
任シ此奉事ヲ務メ使ムヘキヤ願クハ之ヲ指示セヨト因テ
圖ヲ抽キシニマトツイ其圖ニ當レリ乃チ之ヲ十一使徒ノ
列ニ加ヘタリ

第二 五旬節ニ至リ聖神使徒ニ降臨セシ事○使徒

ペートル始テ傳教スル事○ペートルノ傳教

ニ因テ三千人ノ門徒教會ニ加入スル事行實

二章

五旬節ニ至リハリストスノ門徒ノイエルサリムニ在ル者
皆神殿ニ集合シ例ニ因テ相共ニ殿中ノ一室内ニアリタリ
其他ハレステナ及ヒ遠隔ノ地方ヨリイウデア人及ヒ改宗
者ノ神殿ニ來リテ祭物ヲ獻シ祈禱ヲ爲ス者數人アリ朝時
祈禱ニ及フ比ヒ忽チ天ヨリ聲アリ恰モ奮迅ノ風ノ如クハ
リストス門徒ノ集合セシ室内ニ充滿シ且ツ火ノ如キ岐舌

現ハレテ各人ノ頭上ニ臨ミシカハ衆ハ聖神ニ充タサレ始
テ能ク各國ノ方言ヲ言フ蓋聖神ハ彼等チノ之ヲ言ハシム
ル也此ノ聲アルヲ聞クヤ人民ノ此ニ集ル者甚タ多カリケ
ルガ門徒カ各國人民ニ向テ説クニ各國ノ方言ヲ以テスル
ヲ聞クニ及ヒ皆奇トシ驚カサルハ無シ其此ニ會スル者ハ
パレフェヤ人エラム人ノメソポタミヤ、イウデアヤ、カツパドキ
ヤ、ポント、アレヤ、フリギヤ、パムヒリヤ、エキペト、キリネヤ近
傍ナルリウイヤ地方ニ居ル人及ヒイウデアヤ人カリト人アラ
ウイヤ人其他ロマヨリ來リシ者及ヒ異教ヨリ歸宗セシ者等
也皆大ニ驚キ相語テ曰ク此ノ演説スル者ハ皆ガリレヤ人

ニアラズヤ而ルニ今彼等ガ神ノ大用ヲ説クヲ聞クニ其方
 言ヲ以セズノ皆吾人が生國ナル各地ノ方言ヲ以テス是レ
 果ソ何ノ意ソヤト一人アリ(盖何國ノ方言ヲモ了解スル能
 ハサルイエルサリム人ナラン)戯レテ曰ク彼等醴酒ヲ飲ン
 テ酌スル耳ト時ニペートル十一使徒ト共ニ進ミ衆ノ前ニ
 出テ揚言ソ曰クイウデヤ人及ヒ凡テイエルサリムノ住人
 ヤ宜ク静心注意ソ我カ言ヲ聽キ且ツ自ラ善ク猛省スヘシ
 今^マ時纔ニ第三時ニ過キズ彼等安ンツ能ク酌酒スルアラン
 ヤ是レ即チ預言者イサイルカ曾テ預言セシ^コノ今此^トニ應
 シタル也神曰ク末日ニ我レ將ニ我カ靈ヲ以テ衆人ニ注ガ

ン^ドス爾ノ諸子ト爾ノ諸女ハ將ニ預言シ爾ノ少者ハ異象
 ナ見爾ノ諸老ハ夢ヲ見ントス盖此時我カ靈ヲ以テ我カ僕
 婢ニ注ガン彼等將ニ預言セントス而ソ主ノ名ヲ呼フ者ハ
 必救ヲ得ント 約耳書二章 二八、三三 イズライリ人ヤ我カ言ヲ聽ケ夫
 レナヅレ^一人イ、ス、カ神ノ意ニ因テ奇蹟休徴ヲ爾ノ間
 ニ行ヒシハ爾ノ知ル所也盖シ此人ハ己ニ神ノ預定ニ循フ
 モノ也爾ハ嘗テ之ヲ十字架上ニ釘殺セリ然レ^レ神ハ彼ヲ
 ソ復活セシメタリ其復活ノ^コハ^マウ^イド^ト既ニ之ヲ知リ預
 言ソ曰ク爾我ガ魂ヲ陰府ニ遺カズ又爾ノ聖者ヲメ朽壞セ
 サラシムト 詩篇十蓋^マウ^イド^ト既ニ死ソ葬ラレ其墓今日ニ

至ルマテ猶存ス故ニ其ノ言フ所ハ全ク已ノ事ヲ言フニア
ラズ乃チ預言者ナルガ故ニ曾テダウイトノ後裔ヨリ生ル
ト約セラレシハリストスノ復活ノ事ヲ預言セシ也我儕
ハ是レ皆イ、ス、ノ復活ヲ証スル者也ハリストスハ天ニ
昇リ神ノ右ニ坐シ聖父ヨリ約セラレシ所ノ聖神ヲ受ケ爾
カ見聞スル所ノ者ニ注キシ也又ダウイドノ言ニ云ク主我
カ主ニ謂テ曰ク爾我カ右ニ坐セ我爾ノ敵ヲ以テ爾ノ足凳
ト爲スヲ待テト詩篇一百彼ノダウイドナル者ハ未タ天ニ昇
ラズ故ニ此言モ亦己ノ事ニ非ザルヲ明ケシ夫是レノ如シ
イマテイリノ全家ヤ宜シク神ハ爾カ十字架上ニ釘殺セシ

所ノイ、ス、ヲ以テ主ト爲シハリストストナセシヲ確知
ス可シト衆之ヲ聞テ大ニ感動シベイトル及ヒ諸使徒ニ向
ヒ問テ曰ク兄弟ヤ我儕當サニ何ヲ爲スヘキヤトベイトル
衆ニ語テ曰ク爾等宜シク悔改シ而メイ、ス、ハリストス
ノ名ヲ以テ洗禮ヲ受クベシ然ルキハ諸ノ罪惡ヲ免レテ聖
神ノ恩寵ヲ受ルヲ必セリ何トナレハ既ニ爾及ヒ爾ノ子孫
ニモ我主神ノ召ス所ノ遠人ニモ同シク約束ヲ賜ハリタレ
ハ也ベイトル又衆ニ諭シ且ツ勸メテ曰ク爾等ハ淫蕩ナル
世人及ヒ同國人中ヨリ救脱スルヲ得ベシト衆中其ノ勸
示ニ從テ洗禮ヲ受ル者アリ一日ニシテ百二十人ノ信者ニ加

入スル者既ニ三千人ノ多キニ及ブ皆常ニ諸使徒ト交通シ
其教戒ヲ受ケ共ニ餅ヲ擘キ共ニ祈禱ヲ行フ民皆之ヲ敬畏
メ一人ノ之ニ對シ惡ヲ爲スモノナカリケリ諸使徒ハイエ
ルサリムニ在リテ奇蹟休徵ヲ行フ亦多ク信者互ニ相集
合ソ一トナリ諸物ヲ共用シ信者中匱乏者アレハ各財産什
物ヲ鬻キテ之ヲ分與シ以テ其窮ヲ救助セリ又毎日堂ニ來
リテ一心ニ祈禱ヲ爲シ家ニ在リテハ新ニ定立シタル聖体
機密ノ餅ヲ擘キ神ヲ讚揚シ歡心誠意以テ常ニ之ヲ食シ皆
人民ノ愛敬スル所トナレリ又主ハ救ヲ求ムル者ヲ以テ日
ニ教會ニ加入セシメタリ

第三 跛者治愈ノ事○ペイトル復タ傳教ノ教會信
者五千人ニ至ル事○行實三ノ一至四及四章
或日第九時ペイトルハイチアント共ニ(午后三時即チ晚餐
祈禱ノ時也)堂ニ上リテ祈禱ヲ行ハントス此ニ生レナカラ
ニ跛ナル者アリ毎日人ニ昇カレテ堂ノ朱門ト名クル所
ニ來リ常ニ堂ニ出入スル者ニ向テ施濟ヲ乞ヘリ今ペイト
ルイチアントノ堂ニ入ラントスルヲ見テ又施濟ヲ乞フペ
イトルイチアント之ヲ熟視シ曰ク爾我儕ヲ見ルヘシト跛者思
ラク必惠與ヲ受クルナラント即チ仰テ二人ヲ見ルペイト
ル謂テ曰ク我ニ金銀ナシ唯我ニアル所ノ者ヲ以テ爾ニ予

へン即チナツレノ人イ、ス、ハリストスノ名ヲ以テ爾
 ニ命ス起テ歩セヨト因テ右手ヲ執テ彼ヲ扶ケ起タシム時
 ニ跛者兩足共ニ強健トナリ起ツテ歩スルヲ得二人ニ從
 ヒ堂ニ入り欣躍拊舞メ神ヲ讚美セリ衆人之ヲ見テ其常ニ
 朱門ニ坐ソ衆ニ施濟ヲ乞ヒシ者タルヲ知リテ大ニ驚キ且
 ツ異シミタリ跛者ハ治愈ヲ得テペートルイヲアソニ隨ヒ
 テ其側ヲ離レス是ヲ以テ諸民益々駭キソロモント稱スル
 廊ニ趨リテ二人ノ傍ニ就キタリペートル衆ニ向ヒ語テ曰
 クイズライリ人乎爾何ノ故ニ之ヲ以テ奇トスルヤ又何ノ
 故ニ我ヲ注視スルヤ彼ノ跛者ヲ歩スルヲ得セシムル

者ハ我儕カ已ノ能力ト虔敬トヲ以テ之ヲ爲スト思ヘルカ
 我祖アウラアムイサアクイヤコフノ神ハ己ノ子イ、ス、
 ナ榮セリ然ルニ爾等ハ唯其イ、ス、ヲ售リシ耳ナラズビ
 ラトノ之ヲ釋カント欲セシ時ニ爾ハ猶且ツ其面前ニ於テ
 之ヲ拒絕シ又爾ハ義者ヲ拒テ人ヲ殺ス者ヲ免サンヲ求
 メ爾ハ生命ノ原タル者ヲ殺シタリト雖ヒ神ハ之ヲ死ヨリ
 復活セシメタリ我儕ハ乃チ其証者ナリ神ハ爾ヲメイ、ス
 ハ、ヲ信セシメンガ爲メニ爾親シク見ル所ノ此跛者ヲ起立
 セシメ此跛者ハ彼ノ名ヲ信スルニ因テ我儕乃チ爾ノ面前
 ニ於テ之ニ平癒ヲ得セシメタリ兄弟ヤ我ノ固ヨリ知ル爾

ノ長及ヒ爾ノ行ヒシ所ハ皆固ヨリ無知ニ出タリシヲ神ハ
 曾テ諸預言者ノ口ヲ藉リテハリストスカ害ヲ受クルヲ
 預定セシ如ク今果シテ相應スルヲ致セリ故ニ爾其罪惡ヲ
 免レント欲セバ宜シク早ク懺悔ノ改心スヘシ然ルキハ主
 ハ爾ノ爲ニ安樂ノ時ヲ致シ且ツ爾ノ爲メニ預定セシイ、
 ス、ハリストスヲ遣シ來タスベシ彼ハ創世ヨリ以降諸ノ
 聖預言者ノ口ヲ藉リテ神ノ預言シタル者ノ皆善ク整頓セ
 ザルノ間ハ當ニ天ニ在ルヘキ也モイセイ我カ父祖ニ語テ
 曰ク主神ハ爾ノ諸兄弟中ヨリ我ノ如キ一預言者ヲ立ツヘ
 シ凡ソ彼カ爾ニ語ル所ノ者ハ爾宜シク之ヲ聽ケ之ヲ聽カ

ザル者ハ皆民中ヨリ滅サルヘシ 復傳律例十八ノサムイル
 十五、十八、十九

ヨリ後諸預言者皆此日ヲ預言セサルハナシ其ノ預言スル所
 ハ皆爾ノ爲メニスル者也又神嘗テ約ヲ我カ父祖ニ賜ヒア
 ウラアムニ語テ天下ノ人民ハ皆爾ノ後裔ニ由テ福ヲ獲ヘ
 シト云ヒシモ亦爾ニ關スル者也今神ハ其子イ、ス、ヲ復
 活セシメテ先ツ之ヲ爾ニ遣ハセシモ亦爾衆人ヲノ惡業ヲ
 改メシメ以テ爾ニ福ヲ降サンガ爲也ト 創世記二二ノ使徒
 カ此ノ傳教ヲナス時ニ當テ諸祭司殿司及ヒサドケイ人等
 來リ使徒ノ人民ヲ教訓シ且ツイ、ス、ヲ引証ノ死者ノ復
 活ヲ傳フルヲ見テ大ニ之ヲ嫉ミペートル及ヒイサアンヲ

執ヘタリ然レモ日既ニ暮ニ迫ルヲ以テ乃チ兩人ヲ衛兵ニ
附シ明朝ヲ待ツ時ニペートルノ傳教ヲ聞テ之ヲ信スル者
既ニ五千人ノ多キニ及ヘリ

第四 議會ニ對シ諸使徒イ、ス、ハリストスノ事

ヲ証シ屈撓セサル事○信者一心ノ事行實四
ノ五至三七

明日會議ヲ開キ祭司長アンナ及ヒカイアハ會合シペー
ル及ヒイラアンヲ會前ニ立タシメ問テ曰ク爾ハ誰ノ名ト
何ノカトヲ以テ之ヲ行フヤペートル聖神ヲ滿盈シ之ニ謂
テ曰ク民ノ有司及ヒイズライリノ長老ヤ我儕ガ跛者ニ善

ヲ行ヒ之ヲシ治愈ヲ得セシメシ理由ヲ論ゼバ是レ他ナシ爾
之ヲ十字架上ニ釘殺スト雖モ神之ヲ復活セシメタル所ノ
イ、ス、ハリストスノ名ヲ以テ之ヲ行ヒシノミ此事ハイ
ズライリノ全民及ヒ爾衆人皆必之ヲ知ラン且ツ此跛者ハ
己ニ強健ニ復シ今爾ノ前ニ立ツ是レ所謂ル爾工師ノ棄ル所ノ
石己ニ屋隅ノ首石トナル者也詩篇百二十此外他ニ救ナシ何
トナレハ天下ニ我儕ノ頼テ以テ救ヲ得ヘキノ人ナケレバ
也ト會員ハペートルイヲアンノ剛毅ナルヲ見且ツ其ノ素ト
無學ノ小民ナルヲ知リテ大ニ之ヲ異シメリ然レモ彼等ノ
曾テイ、ス、ト與ニ在リシヲ知リ又治愈ヲ得タル跛者カ

其側ニ立ツテ見テ更ニ之ヲ論駁排斥スル能ハス乃チ先ツ
 二人ニ命シテ會場ヲ退カシメ相議メ曰ク此二人ノ者ハ當
 サニ何ノ律ニ之ヲ處スヘキヤ既ニイエルサリムノ人民ハ
 皆彼等ノ奇蹟休徵ヲ行ヒシヲ知ル故ニ我儕今之ヲ拒ム
 能ハス唯此事民間ニ播布セザルガ爲メニ嚴ク彼等ヲ恐喝
 シ以后此名ヲ以テ人ニ語ザラシムルニ若クハナシト遂ニ
 二人ヲ召シ之ニ命シテ后必イ、ス、ノ名ヲ言ヒ且ツ之ヲ
 教フルコト勿ラシムベイトルイヲアソ之ニ答テ曰ク爾宜シ
 ク自ラ審スヘシ爾ニ聽クハ神ニ聽クニ勝ラハ是レ神前ニ
 於テ當然ノ理トナス乎我儕見聞セシコトハ之ヲ人ニ語ラザ

ルヲ得ザル也ト是ニ於テ二人ヲ罰責スヘキ罪狀ナキ耳ナ
 ラス人民ハ其爲ス所ニ因テ神ヲ讚榮メ止マサレハ會員ハ
 之ヲ恐レ徒ニ二人ヲ恐喝メ遂ニ之ヲ放免セリ奇蹟ニ因テ
 治愈ヲ得タル跛者ハ此時年四十餘歳也ト使徒ペイトルイ
 ナアン既ニ歸リテ祭司長及ヒ長老輩ノ言ヲ以テ衆ニ語リ
 シカハ衆之ヲ聞キ一心聲ヲ揚ケ神ニ祈リテ曰ク主神ヤ天
 地及ヒ萬物ヲ造ル者ヤ爾其僕ダワイトノ口ヲ以テ言ヘル
 コアリ異邦咆哮シ諸民徒謀スルハ何ノ爲メソヤ地ノ列王
 自立シ群伯相議メ主及ヒハリストスヲ攻ムノ詩一篇二ト果ソ
 イロド及ヒボンテーピラト此都城ニ集會メ異邦人及ヒイ

ズライリ人民ト共ニ爾ノ膏スル所ノ聖子イ、ス、チ攻メ
 以テ爾ノ曾テ全能力ヲ以テ預定セシヲ成ス主ヤ彼等ノ
 恐喝ヲ監メ爾ノ僕ヲ侃々トメ爾ノ言ヲ傳ヒ爾ノ聖子イ
 、ス、ノ名ヲ以テ奇蹟休徵ヲ行ヒ且ツ醫ヲ施スヲ得セシ
 メヨト衆祈禱ヲ畢ルヤ其集合セシ處大ニ震動メ衆人皆聖
 神ヲ滿盈シ侃々トメ各、神言ヲ宣ヘ就中、使徒等ハ大能ヲ以
 テイ、ス、ハリストスノ復活ヲ証セリ
 教ヲ信スル者既ニ甚タ多カリシト雖ヒ衆皆和睦メ恰モ一
 心一志ノ如シ財產アル者ハ各皆之ヲ以テ公有物ト爲シテ
 一人、之ヲ私スル者ナシ田地家屋アル者ハ之ヲ鬻キテ其金

ヲ携ヒ來リ使徒ノ足頭ニ置キ需求スル者アレハ則之ニ分與
 スルヲ以テ窮乏ノ者ナシキアルノ人ニイテシヤ使徒呼テ
 ワルナワ(譯スレハ慰藉ノ子)ト稱スル者アリレウイノ族也自
 ラ所有ノ田ヲ售リ其金ヲ携ヒ來リテ使徒ノ足頭ニ置ケリ
 第五 アナニヤ及ヒサアヒラ怪死ノ事○行實五ノ
 一至十一

爰ニアナニヤナル者アリ其妻サアヒラト議シ田地ヲ售リ
 妻ノ勸メニ因リテ竊ニ其金若干ヲ藏シ其餘ヲ携ヒ來リテ使
 徒ノ足頭ニ置キタリシカペートル之ニ向ヒ言テ曰クアナ
 ニヤヤ爾何爲レソサタナニ聽テ心中ニ聖神ヲ欺クノ念慮

ナ生シ竊カニ田地ヲ賣却セシ金員ノ若干ヲ藏シタルヤ田
 地未タ賣ラザル前ハ爾ノ田地ニアラスヤ之ヲ賣ルモ其金
 ハ爾ノ權ニ屬スルニアラスヤ爾何爲ソ斯ノ如キノ念慮ヲ
 生セシヤ是レ爾ハ人ヲ欺クニアラス乃チ聖神ヲ欺キシ者
 也トアナニヤ此言ヲ聞キ忽チ倒レテ氣絶ス此ニ在ル者ハ
 之ヲ見テ大ニ恐懼シ諸少者乃チ起テ其尸ヲ昇キ出タソ之
 チ埋葬セリ三時問ヲ經テ其妻毫モ此事アルヲ知ラスソ來
 リシカペートル彼ニ問テ曰ク爾田地ヲ賣ルノ價此ニ止マ
 ルヤ明カニ我ニ告ケヨ答テ曰ク然リ此ニ止ル耳ペートル
 曰ク爾何爲ソ夫ト共ニ謀リテ主ノ靈ヲ欺クヤ爾ノ夫ヲ葬

ムリシ者今正ニ歸リ來リ將ニ爾ヲ昇キ出サント言未ダ終
 ハザルニサプロヒラ忽チペートルノ足頭ニ倒レテ氣絶シケ
 レハ少者來テ又其屍ヲ昇キ出シ其ノ夫ノ側ニ葬レリ全教
 會、及、凡ソ此事ヲ聞知スル者皆大ニ畏怖セリ

第六 諸使徒奇蹟ヲ行フ事○諸使徒獄ニ繋カル事○

奇蹟、囚ヲ脱セシ事○諸使徒イ、ス、ハリス
 トスノ爲メニ苦難ヲ甘受スル事○行實五ノ
 十十二至四二

諸使徒ハ民間ニ於テ大奇蹟ヲ行ヒタレハ一日病者ヲ昇テ
 衢ニ來リ之ヲ寢床ニ置ク者アリ蓋ペートルノ通行ヲ待テ

其影ノ或ハ之ヲ掩ハンコト望ミテ也又イエルサリム近傍ヨリ病者及ヒ憑鬼者ヲ携ヒ市街ニ來ル者最モ多カリシガ是等皆痊愈ヲ得テ歸レリ諸使徒皆一心ニソロモント名ケタル廊ニ在リシニ異端ノ人ハ敢テ之ニ近ツカズ然レモ民ハ皆之ヲ讚揚賞美シ又信者ノ數モ日一日ヨリ盛ニ増加セシカハ祭司長カイアハ及ヒ其同志ノ徒、即、サドケイ教派ノ者等之ヲ嫉ムト益々甚シク遂ニ使徒ヲ執ヘテ之ヲ獄ニ幽シタリ夜半二天使來リテ獄門ヲ開キ諸使徒ヲ導キ出ソ言テ曰ク爾等神殿ニ行テ永生ノ道ヲ教訓スヘシト使徒乃チ明且ニ及ヒ堂ニ上テ傳教ス時ニ祭司長カイアハ及ヒ其同

志ノ者會議ヲ開キ人ヲ獄ニ遣メ使徒ヲ見セシム使者忽チ復命メ曰ク我等獄ニ往テ之ヲ見ルニ獄門堅ク鎖シ衛兵其傍ニ儼立ス入テ門ヲ開ケハ囚人一人ヲモ見スト衆之ヲ聞テ皆大ニ驚キ異シム時ニ一人アリ來リ報シテ曰ク爾ガ獄ニ繫キシ者ハ皆堂ニ上テ民ヲ教訓ストコノ時堂ノ衛守長、屬吏ヲ從ヒ往テ彼等ヲ拘引セリ然レモ人民ノ爲メニ石撃セラレシコトヲ恐テ敢テ威力ヲ用キザリキ是ニ於テ使徒ヲ會場ニ立テ祭司長之ニ謂テ曰ク我儕既ニ爾ニ命シテ彼(司祭長ハ主イ、ス、)ノ名ヲ言フヲ欲セズ故ニ唯彼ト云フ)ノ名ヲ用ウルヲ嚴禁セシニアラスヤ然ルニ爾遍クイエルサリム

ニ傳教ヲナスハ則チ此人ノ血ヲ以テ答テ我儕ニ歸セント
 欲スルカペートル諸使徒ニ代リ答テ曰ク人ニ恭順セシム
 リハ宜ク神ニ恭順スベシ(凡テ神ニ恭順スルハ宜シク人ヨ
 リ勝ルヘシ)我が父祖ノ神ハ爾等ガ十字架上ニ釘殺セシ所
 ノイ、ス、チ復活セシメタリ且ツ神ハイズライリ人ナシ
 前非チ悔改メ以テ罪惡ノ赦免ヲ得セシメンガ爲メニイ、
 ス、チ學テ巳ノ右ニ置キ以テ首長トナシ以テ救主トナシ
 我儕及ヒ神ノ信徒者ニ賜ヒタル所ノ聖神ハ皆此事ノ証チ
 爲ス也トイウテヤ人此言ヲ聞テ大ニ怒リ將ニ使徒ヲ殺サ
 ントス此ニ一人ノハリセイ人ガマリイルト云フ者アリ法

律教師ニシテ大ニ民間ニ尊敬セラル、者也會場ニ立テ使徒ニ
 命シテ暫ク退カシメ衆ニ語テ曰クイスライリ人ヤ此諸人
 ノ事ニ關シテハ爾等自ラ慎戒セヨ近者曾テヘウダト云フ
 者出テ自ラ尊大誇慢シ之ニ從フ者四百人ニ及ベリ然レモ
 彼レ誅殺セラルニ及テ彼チ信奉セシ者皆散乱メ其跡ヲ絶
 ツニ至レリ其後戶籍調査ノ時ニ當テガリレヤ人イウタナ
 ル者民間ニ起リ民ノ之ニ從フ者亦多カリシガ其亡スルニ
 及テ信徒者亦皆離散セリ故ニ我今諸君ニ忠告ス此諸人チ
 處スルニハ先ツ之チ不問ニ置クニ若クハナシ若シ其爲ス
 所チ人爲ノ外ニ出ザラシメバ其事必自ラ壞レンノミ若

シ神爲ニ屬スレバ則チ爾ハ當ニ之ヲ保護スベキ也安ソツ
 之ヲ壞ルコトヲ得ンヤ若シ猥リニ之ヲ壞ラント欲セハ是レ
 徒ニ神ノ抗抵者トナランノミ其議遂ニ衆ノ容ル、所トナリ
 乃チ先ツ諸使徒ヲ召ヒイ、ス、ノ事ヲ傳ル勿レト命シ
 之ヲ毆打ノ放免セリ諸使徒會場ヲ出テ主イ、ス、ノ爲メ
 ニ辱ヲ受ケシヲ以テ大ニ之ヲ喜ヒ是ヨリ毎日或ハ堂ニア
 リ或ハ家ニアリテ孜々諄々トシイ、ス、ハリストスノ事
 チ教訓ノ止マリサリキ

第七 補祭七人ヲ選舉スル事○行實六ノ一至六

此時門徒ノ増加スル者甚メ多ク已ニ教ヲ奉セシエウレ

人ト異邦人ノ地ニ生レシ者トノ間ニ罅隙ヲ生セリ蓋毎日
 ノ施濟其嫠婦ニ及ハサルヲ以テパレステナノエウレ一人
 チ怨ムニ因テ也此時使徒ハ諸門徒ヲ招キ謂テ曰ク我儕唯
 几席ニ從事スルカ爲メニ神言ノ傳布ヲ怠ルハ是レ宜キニ
 非ザル也兄弟ヤ彼ノ聖神ヲ滿盈ノ智能ヲ具有スル者七人
 ヲ選舉シ之ニ任スルニ此ノ事ノ一切ヲ以テメ我儕ヲノ專
 ラ祈禱傳教及ヒ奉事等ニ從事スルコトヲ得セシメヨト衆之
 チ賛成シ遂ニ聖神ヲ滿盈シ教ニ篤信ナルステハンチ選ヒ
 又ヒリツア及ヒ其他五人ヲ選舉ノ之ヲ使徒ノ前ニ立ケレ
 ハ使徒ハ祈禱ヲ行ヒテ之ニ接手セリ是ヲハリストスノ教

會ニ補祭ヲ置クノ始トナス

第八 第一ノ致命者ステハンノ事○行實六ノ七至
八ノ二

神ノ道駸々トシテ四方ニ傳播シイエルサリムニテモ門徒ノ
増加スルヲ愈多ケレハ祭司中ニモ衆ク信スル者有ルニ至
レリ時ニステハンハ信力ヲ充盈ノ民間ニ大奇蹟休徴ヲ行
ナヘリリベルト人キリネヤ人アレキサントリヤ人キリキ
ヤ人アシヤ人ノ會堂ニ屬スル者起テステハント辨論スト
雖厄ステハンソ睿智靈心ニテ言フニ勝ツ能ハサレハ計ヲ
設テ衆人ヲ挑誘ソステハンガモイセイ及ヒ神ヲ誹議スル

ノ言ヲ吐キシテ聞キタリト言ハシメ以テ人民及ヒ長老學
士輩ヲ擾動セシメタリ彼等乃チステハンヲ執ヘテ會場ニ
拘引シ偽証者ヲ設ケ言ハシメテ曰ク此人常ニ我儕ノ聖所
及ヒ法律ヲ誹謗ノ止マズ且ツ我儕此人ノ言ヲ聞クニナサ
レトノ人イイス、ハ將ニ此場所ヲ毀テ且ツモイセイカ我
儕ニ遺傳セシ所ノ風俗ヲ變易セントスト時ニ會場ニ在ル
諸人ハステハンヲ見ルニ其形天使ノ如シ祭司長カイアハ
問テ曰ク是事果シテ然ルカトステハンハ先ツ會場ニ向ヒ
ハリストズ福音ノ新約ヲ以テモイセイノ舊約ヲ變スルヲ
トイエルサリム城及ヒ神殿ノ亡滅カ目前ニ迫リシヲ言

シト雖也毫モ國風ヲ誹謗シ聖所ヲ凌侮スルノ意ナキヲ辨
 駁セント欲シ又モイセイ法律ノ儀式ナシト雖也亦神ヲ恭
 敬セサル可カラザルヲ神ノ仁愛ハ敢テ行堂或ハ人造神殿
 ノ如キ一所ニ偏スル者ニアラザルヲ及ビ彼等ハ人間ノ眞
 救贖主ナルイ、ス、ヲ拒キテモイセイヲ尊崇スト雖也モ
 イセイハ嘗テ我父祖ノ爲メニ貶セラレタルヲ等ノ數事ヲ
 説明スルニ選民ノ歴史ヲ以テセント欲シ乃チ從容トソ答
 テ曰ク諸父兄弟ヤ我言ヲ聽ケ光榮ノ神ハ我が祖アウラア
 ムノ未タハルランニ移ラサル前之ニ現ハレ謂テ曰ク爾ノ
 地ヲ出テ爾ノ宗族及ヒ爾ノ父家ヲ去テ我將ニ示サントス

ル所ノ地ニ行クベシ創世記十ト其時アウラアムハハウデ
 一ノ地ヲ去リテハルランニ赴キ住セリ其父死セシ後神ハ
 亦之ヲ移シテ今爾ノ住スル處ノ地ニ居ラシム然レモ此ニ
 アリテ神ハ之ニ家産ハ勿論猶足ヲ立ル場所ヲモ賜ハラス
 而シテ彼未タ子アラサルニ此地ヲ以テ其子孫ニ賜フト約セ
 リ神又曰ク彼ノ子孫ハ四百年間他邦ニ羈旅ノ奴隸トナリ
 非常ノ困苦ヲ受クベシ然レモ之ヲ奴隸スル民ハ我必之ヲ
 罰セン其後彼等將ニ出テ、我ニ此地ニ奉事セントスト創世
記十五四ノ因テアウラアムニ割禮ノ約ヲ與ヘタリ其後アウ
 ラアム子イサークヲ生ミ八日ニ割禮ヲ行フイサークハ

イヤコフヲ生ミイヤコフハ十二族祖ヲ生ム族祖ハ嫉妬ノ
 心ヨリソイヤシフヲエキペトニ賣リタリ然レ厄神ハ常ニ
 イチシフヲ離レスノ之ヲ困難ニ救ヒ又エキペトノ王ハラ
 ナンノ前ニ於テ之ニ睿智仁愛ヲ賜ヘリハラナン乃チイチ
 シフヲ立テ、エキペトノ執政者トナシ且ツ己ガ家宰トナ
 セリ適々エキペト及ヒハナアンノ地大ニ饑饉アリシカハ
 我父祖ハ糧食ヲ得ルニ途ナクソ大ニ困難ヲ究メタリ時ニ
 イヤコフハエキペトノ地ニ穀アルヲ聞知シ我が諸祖ヲ彼
 ニ遣セリ彼等再ヒエキペトニ行クニ及テイチシフ始テ諸
 兄弟ニ告ルニ實ヲ以テシ是ヲ以テイチシフノ兄弟宗族始テ

ハラナンノ知ル所トナレリイチシフ遂ニ父イヤコフ及ヒ
 一族ヲエキペトニ迎ヘタリシカバイヤコフハエキペトニ
 來リテ身ヲ終ヘ我が父祖モ亦此ニ没セリ神カ誓ヲ以テア
 ケラアムニ賜ヒシ約束ノ將ニ應セントスルノ時近ツクニ
 隨ヒ民愈々エキペトニ蕃殖シ遂ニ諸王ノイチシフヲ知ラ
 サル者興起シ我が父祖ヲ窘逐シ之ヲ生兒ヲ棄殺セシム
 ルニ至レリモイセイハ此時ニ當テ生レ其ノ天質甚タ美ニ
 シ三月ノ間父家ニ育ハレタレモ勢既ニ投棄セザルヲ得サ
 ルニ及テ之ヲ棄テタリシガ幸ニハラナンノ女之ヲ取リテ
 我子トナシ以テ之ヲ養育セリモイセイ長スルニ及テ悉ク

エキペト國ノ學術ニ涉獵シ歲既ニ四十ニ至リシキ諸兄弟
 即イズライリ人ヲ訪ハント欲スルノ念ヲ生シ一日エキペ
 ト人ノイスライリ人ヲ侮辱スルヲ見被辱者ヲ助テエキペ
 ト人ヲ打殺セリ時ニモイセイ以爲ラク兄弟ハ神カ我ヲ以
 テ救贖ノ道ヲ行ハシムルヲ悟ルヤ否ヤト然レ厄兄弟ハ
 之ヲ悟ラザリキ他日亦兄弟ノ相鬪ヲ見懇論ヲ互ニ和睦
 セシメ且ツ之ニ語テ曰ク兄弟ヤ何爲レゾ相互ニ侮辱スル
 斯ノ如キヤト然ルニ誹謗者アリ之ヲ拒キテ曰ク誰カ爾ヲ
 立テ首長トナシ且ツ我儕ノ裁判官トナシタル歟爾曾テエ
 キペト人ヲ殺セシ如ク亦我ヲ殺サント欲スルカトモイセ

イ之ヲ聞キ逃テマデアムノ地ニ赴キ此ニ羈旅スル四十年
 其後シナイ山ノ曠野ニ於テ荆棘中天使カ焰ヲ負フテモイ
 セイノ前ニ現ハレシカハモイセイハ之ヲ見テ大ニ奇トシ
 近テ諦視セントセシガ忽チ主ノ聲アルヲ聞ク曰ク我ハ爾
 ノ諸祖ノ神即チアウラアムノ神イサークノ神イヤコフノ
 神也トモイセイ之ヲ聞キ戰慄ノ敢テ仰キ見ズ主之ニ言テ
 曰ク爾ノ足履ヲ解ケ何トナレハ爾立ツ所ノ地ハ乃チ聖地
 也我ハ我民ノエキペトニ在テ困苦スルヲ見且ツ其嘆息ノ
 聲ヲ聽キ因テ之ヲ救ンガ爲メニ此ニ降臨セリ爾來レ我將
 ニ爾ヲ遣メエキペトニ往カシメントスト夫レ民ハ嘗テ此

モイセイヲ排斥メ誰カ爾ヲ立テ、首長トナシ且ツ裁判官トナスヤト言フト雖モ然レモ神ハ實ニ棘中ニ現ハンシ所ノ天使ニ托ソ之ヲ遣ハメ首長トナシ又救護者トナセリ是ニ於テモイセイハ四十年間エキベト地方及ヒ紅海並ニ曠野ニ於テ大奇蹟ヲ行フテ遂ニ民ヲ困難ヨリ率ヒ出シタリ是レ即嘗テイズライリノ諸子ニ語テ爾ノ主神ハ將ニ兄弟中ヨリ我ノ如キ預言者ヲ立テントス爾宜シク之ニ從順スヘシ復傳律例書ト言シ所ノモイセイ也是即シナイ山上ニ在リテ天使ト言ヲ交ヘ及ヒ我諸祖ト偕ニ嘗テ曠野ニ在リシ所ノモイセイ也是レ即チ生命ノ言ヲ受テ我儕ニ遺傳セ

シ所ノモイセイ也然レモ我諸祖ハ彼ニ從順スルヲ欲セス反テ之ヲ拒ミ且ツ犢牛ノ金像ヲ捏造シ祭物ヲ獻セシガハ神ハ怒テ之ヲ棄テ、顧ミズ復、其ノ天軍ニ奉事スルニ任セリ且ツ我諸祖ハ曠野ニ於テ會合ノ行堂ヲ有セシガイ、ス、ナウイント與コ之ヲ移シ異邦人即チ嘗テ神ノ爲メニ我が諸祖ノ前ヨリ放逐セラレタリシ所ノ民ノ地方ニ置キ之ヲ保存シダウードノ時ニ至ル此ダウードハ常ニイヤコフノ神ノ爲メニ殿堂ヲ造ラントチ祈願セシガソロモンノ時ニ至リテ始テ之ヲ造營セリ然レモ至上者ハ人造ノ殿堂ニ居ラス預言者イサイヤノ云フ所ノ如シ其言ニ曰ク天ハ乃我

ガ坐位地ハ乃我が足登也以賽伊亞六主管テ言ヘリ爾能ク
 我カ爲メニ如何ナル家ヲ造ルコトヲ得ベキヤ又我が爲メニ
 如何ナル安居ノ場所ヲ備フルコトヲ得ベキヤ何トナレバ此
 等ノ物ハ皆我が手ノ造爲スル所ニ非ズヤ(蓋此時會員ハ必耐
 忍スル能ハザルニ至ルナルヘシ何トナレバ彼等ハ堅クイ
 エルサリム神殿ハ必永久ニ存立スベシト信ゼシニ今ステ
 ハンハ之ヲ以テ神ヲ安居ナサシムルノ要處トナサスト云
 ヘハ也因テ將ニステハンノ言ヲ中止メ死刑ヲ宣告セント
 セシガ其時ステハンハ言ヲ止メ會議ニ向ヒ衆ノ迷朦ヲ解
 キ再ビ言テ曰ク爾強暴ノ者ヤ未タ割禮ヲ受ケサル心ト耳

トヲ以テ常ニ聖神ニ逆フ是レ爾モ亦其祖先ト同轍ナルノ
 ニ爾ノ祖先ハ預言者ヲ窘逐メ一人モ之ヲ免ル者ナガラシ
 メタリ又豫メ義人ノ來ルヲ告知セシ所ノ諸人ヲ殺セリ今
 爾等ハ其義人ヲ賣リ且ツ之ヲ殺セリ爾ハ天使ノ傳ニ因テ
 法律ヲ受テ遵守セサル也ト衆此言ヲ聞キ激怒ニ勝ヘスノ
 切齒セリステハン聖神ヲ滿盈シ天ヲ仰キテ神ノ榮及ヒイ
 イススカ神ノ右ニ坐スルヲ見テ曰ク我レ天ノ開キ且ツ人
 子ノ神ノ右ニ立ツヲ見ルト(此言蓋神ヲ誹謗スルニ似タリ)
 衆皆大聲ヲ發シ且ツ耳ヲ掩ヒステハンヲ擁メ市外ニ携ヒ
 石ヲ以テ撃ツ此ニ著名ノ少年アリサウルト云フ衆ニ先シ

テ石ヲ投セサルヲ得サル所ノ証者カ己ノ衣ヲ以テ其ノ足
前ニ置ケリ是ニ於テ衆人石ヲ以テステハンチ撃ツステハ
ン乃チ祈リテ曰ク主イ、ス、ヤ我靈ヲ納レヨト膝ヲ屈ソ
揚聲ノ曰ク主ヤ此罪ヲ以テ彼等ニ歸スルコト勿レト官終リ
テ遂ニ寢ス虔敬ナル者數人之ヲ埋葬シ大ニ號泣ノ之ヲ尊
崇セリ

第二分類

パレステナ及ヒシリヤ外ノイウデヤ地
ノ景況

第一

イエルサリムニ於テ教會窘逐ヲ受ル事
ハリストスノ門徒離散ノ事○行實八ノ三

サウルハキリキヤ國ノタルス府ノ人也イエルサリムニ往
キ高名ナル法律博士ガマリイルニ就テ法律ヲ研究セリガ
マリイルハ固ヨリ堅忍ノ氣象アリ且ツ品行篤實ノ人ナレ
ルサウルハ之ニ反ソ熱心ノハリセイ黨ナレハ今ステハン
ノ殘害ヲ受ケシヲ見テ大ニ之ヲ快トセリ抑イエルサリム
教會ニ於テ大窘逐ノ爲メ致命シタル者ハステハンチ以テ
始メトナスサウルハモイセイノ儀式法律ヲ妄信スル者ノ
矛戟トナリハリストスノ信徒者ヲ窘逐スル實ニ慘酷ヲ極
メ各所ノ人家ニ入り男女ヲ執ヘテ之ヲ獄ニ墜キタリ是ニ

於テ使徒ヲ除クノ外ハ皆イエルサリム近傍ナルイウデヤ
及ヒサマリヤ地方ニ散乱シ各所ニ於テハリストスノ福音
ノ道ヲ傳ヒ其他ヒニキヤキプル及ヒアンテオヒヤ等ノ諸
地ニ行ク者アリシガ皆此道ヲ以テイウデヤ人ニノミ傳ヘ
タリ

第二

ヒリツアカサマリヤ人ニ洗禮ヲ授ル事○ペー
トル及ヒイチャアンカサマリヤ人ニ聖神ヲ降ス

事○行實八ノ五至二十五

七十徒ノ二人ヒリツアモ亦イエルサリムヲ去リシ門徒ノ
中ニアリテサマリヤノ首府セワステヤニ來リ都人ニハリ

ストスノ道ヲ傳ヒ且ツ大奇蹟ヲ行ヒタリシガハ人民ハ皆
一心ニ其道ヲ聽キ殊ニ無數ノ汚鬼大ニ叫テ患フル所ノ人
ヨリ出テ又數人ノ跛者癱瘋者カヒリツアノ奇蹟ニ因テ痊
治ヲ得タルヲ見テ都府中大ニ喜ヘリ此都ニシモント稱ス
ル者アリ是ヨリ先キ巫術ヲ以テ毎ニサマリヤ人ヲ驚カソ
常ニ自ラ尊大誇稱セシ故ニ衆人ハ小ト無ク大ト無ク皆之
ヲ稱シ是レ乃神ノ大能也ト云ヘリ然ルニヒリツアカ神國
ノ福音及ヒイ、ス、ハリストスノ事ヲ傳フルヲ聞キ多ク
信シテ洗禮ヲ受ケシモンモ亦之ヲ信シテ己ニ洗禮ヲ受ケ
常ニ之ニ從ヒ且ツヒリツアノ大奇蹟ヲ行テ驚異セリ諸使

徒ノイエルサリムニ在ル者ハサマリヤ人カ神言ヲ受ケタル
 ナ聞キペートル及ヒイサアンヲ遣シテ新領洗禮者ニ聖神ノ
 降臨セシメテ祈禱セシム二人乃チ來リテ爲メニ祈禱ヲ行
 ヒ之ニ接手セシカハ衆皆聖神ヲ受ケタリシモンハ使徒カ
 新領洗禮者ニ接手メ衆皆聖神ヲ受(加)之他國ノ方言ヲモ言
 ヒ又能ク預言スルヲ見テケタルヲ見ペートル及ヒイサア
 ンニ金ヲ與ヘテ曰ク我ニモ亦斯ノ如キノ權ヲ與ヘ即チ我
 ラソ一タビ接手スレバ衆皆聖神ヲ受クルヲ得セシメユ
 トペートル之ニ謂テ曰ク爾若シ金ヲ以テ神ノ賜ヲ受ル
 ヲ得ルト思惟セバ則爾ノ金ハ將ニ爾ト與ニ滅ヒン爾此事

ニ於テ分ナク與カルヲナシ何トナレハ爾ノ心ハ神前ニ在
 テ誠正ナラサレハ也爾宜シク早ク此惡ヲ悔改シ且ツ神ニ
 祈禱スヘシ然ル時ハ爾ノ惡念或ハ幸ニ赦サル、ヲ得ル
 有ラン我レ爾ノ心極メテ昏乱シ且ツ惡ノ爲メニ繫カル、
 ナ見ルトシモン答テ曰ク願シハ爾我カ爲メニ主ニ祈リ爾
 ノ言フ所ノ者ヲ我ニ及バザテ使ヨト其後使徒ハ尽ク緊
 用ナル教誨ヲ爲シテ復タイエルサリムニ返リ途中サマリ
 ヤノ諸邑ニ福音ヲ傳ヘタリ

第三 ヒリツブカエヒチブノ大臣ヲ歸教セシムル

事○行實八ノ廿六至四十

一日天使ヒリツプニ現ハレ言テ曰ク爾起テ日午ニイエルサ
 リムヨリカザニ達スル所ノ通路ニ往ケトヒリツプ乃チ起
 テ此ニ往キシガエヒヲブノ女王カンダキヤノ大臣ニ其
 寶庫ノ監守タルエヒヲブ人ニ遇ヘリ彼ハイエルサリムニ
 行キ崇拜ノ返ル途中車ニ乘リ預言者イサイヤノ經ヲ誦讀
 メ此ヲ過クル也聖神乃チヒリツプニ謂テ曰ク往テ此車ニ
 就ケヒリツプ趨リテ之ニ就キ其ノイサイヤノ書ヲ讀ムヲ
 見テ問テ曰ク爾讀ム所ノ者之ヲ解スルヤ否ヤ答テ曰ク若
 シ我ニ説明スル者ナクンハ我安ンク能ク解スルヲ得ンヤ
 ト乃チヒリツプニ請テ共ニ車ニ乘ラシメタリ其聖書ノ文

ニ曰ク彼レ牽カル、羊ノ屠ニ就クガ如ク己ノ口ヲ啓カザ
 ルハ羔ノ剪毛者ノ前ニ在テ聲ナキガ如シ彼ノ謙讓ニ因テ
 其裁判成レリ彼ノ世代ハ誰カ之ヲ述ンヤ蓋彼ノ生命ハ地
 ニ滅ホサルトイサイヤ三ノ七、八五十大臣、ヒリツプニ問テ曰ク請フ
 我ニ語ケヨ此ノ預言者ノ言ハ即チ誰ノ事ヲ言ヒシ者ヤ已
 ノ事カ將タ他人ノ事カヒリツプ遂ニ此預言ニ由リテハリ
 ストス教ノ眞理ヲ説キ示セリ蓋此預言ハイイス、ハリス
 トスカ十字架ノ死刑ニ掛ルトト彼ハ神ヨリ生レシ事トチ
 預言セシ也是ニ於テ車ヲ進メテ水流ノ所ニ至ル大臣曰ク
 此ニ水アリ我洗禮ヲ受ケントス何ノ障礙カ之有ンヒリツ

プ曰ク爾全心之ヲ信スレハ則チ可也答テ曰クイ、ス、ハ
リストスハ神ノ子ナルヲ信スト因テ命シテ車ヲ止メシムニ
人水ニ入りヒリツア大臣ニ施スニ洗禮ヲ以テス其ノ水ヲ出
ル時聖神新ニ領洗者ノ頭上ニ降臨ス時ニ主ノ使ヒリツアチ
提ケ去ル大臣遂ニ復タ之ヲ見ルヲ得ズ乃チ獨欣然トシ
路ニ就ケリヒリツアハアヅトニ出テ周シ都府ヲ經歷メ福
音ヲ傳ヒ遂ニ海岸ニ在ル所ノケサリヤ府ニ至レリ

第四

サウルカタマスクノ路ニ於テ歸教スル事

サウルカタマスクニ於テ傳教スル事○イ

エルサリムニ於テ諸使徒ト會スル事○行

實九ノ一至三十

サウルハ自國ノ法律ヲ妄信スルニ由テ主ノ門徒ヲ娼嫉ス
ル尤モ甚シク之ヲ攻撃滅絶セシメテ謀リ祭司長カイ
アハノ所ニ至リ請テダマスクニ送ルノ書ヲ賜ハシテ求
メタリ蓋ダマスクニ於テハリストス教ニ信從スル者ハ男
トナク女トナク尽ク之ヲ逮捕メイエルサリムニ致スノ權
ヲ有センガ爲メ也サウル遂ニ其全權ノ委任ヲ受ケ途ニ上
リ既ニダマスクニ近ツキシ時方サニ日中也忽チ光有テ天
ヨリ射映シ其耀シテ日光ヨリモ甚シサウル及ヒ從者ハ皆
其射映ニ耐ヘス恐レテ地ニ仆ル時ニユウレ一語ニテ言フ

聲アリ、サウル獨之ヲ聞ク曰クサウルサウル爾何ソ我ヲ窘逐
 スルヤサウル問テ曰ク主ヤ爾ハ誰タルヤ主曰ク我ハ爾カ窘
 逐スル所ノナヅレノイ、ス、也爾強テ鋒ニ向フテ行クハ
 難シトサウル戰慄メ曰ク主ヤ我ハ當サニ何ヲカ爲スベキ
 ヤ請フ之ヲ命セヨ主命シテ曰ク起テダマスクニ往ケ爾ノ
 當サニ爲スヘキ事ハ彼所ニ於テ爾ニ示ス者アランサウルノ從
 者ハ茫然トシ唯空中ニ聲アリサウル之ト問答ヲ爲スヲ聞
 クノミ然レモサウルト言語ヲ接スル者果メ誰ナルヲ見ス
 サウル徐ニ起チ其目ハ開キタリト雖モ天光ノ爲メニ射映
 セラレテ全ク視力ヲ失ヒ毫モ人ヲ見ルコト能ハス從者ニ扶

ラレテダマスクニ至リ三日物ヲ見ヌ又飲食セザリキコノ
 時ダマスクニ一門徒アリアナニヤト曰フ(後世之ヲ以テハ
 リストス七十徒ノ一人ナリト爲ス)主之ニ語テ曰クアナニ
 ヤヤ起テ直街ト稱スル市ニ往キイウダノ家ニ就テタルス
 ノ人サウルト云フ者ヲ訪ヘ蓋彼今祈禱シ默示中ニ於テアナ
 ニヤト云フ人來テ其視力ヲ復センガ爲メニ之ニ接手スル
 コトヲ見ルトアナニヤ答テ曰ク主ヤ我曾テ衆ニ此人ノ事ヲ
 聞クニ彼ハイエルサリムニ於テ爾ノ聖徒ニ向テ惡ヲ爲セ
 シ事僅少ナラス彼ハ又此ノ地ニ來テ爾ノ名ヲ唱フル者ハ
 尽ク之ヲ執フル全權ヲ祭司長ヨリ委任セラレタリト主ア

ナニヤニ謂テ曰ク爾往ケヨ此人ハ諸民諸王及ヒイズライ
 リ人ニ我名ヲ傳フルガ爲メニ我が選擇セシ器也我將ニ之
 ニ我が名ノ爲ニ困苦スルヲ幾何ナルヲ示サントスアナコ
 ヤ主ノ言ニ從ヒサウルノ家ニ至リ之ニ接手シ謂テ曰ク兄
 弟サウルヤ途上爾ニ顯ハレシ主イ、ス、ハ我ヲ遣メ爾ノ
 目ヲ瘥治シ且ツ聖神ヲ充盈セシムト時ニ忽チサウルノ目
 ヨリ鱗ノ如キ者脫シタリシカバサウルハ即チ物ヲ見ル
 チ得タリアナニヤ之ニ謂テ曰ク我祖ノ神預シメ爾ヲ選擇
 セシハ爾チノ神意ヲ覺リ義人ヲ見且ツ其ノ言ヲ聞カシメ
 ソガ爲メ也何トナレハ爾ハ必衆人ノ前ニ立テ自ラ見聞セ

シヲナ以テ主ノ証者トナラシメテ以テ也爾何ソ遅々スルヤ
 起テヨ宜シク主ノ名ヲ呼テ洗禮ヲ受ケ以テ諸ノ罪惡ヲ去
 ルベシトサウル乃チ洗禮ヲ受ケ食スレハ則強健トナレリ
 其后サウルハ神ノ命ニ從ヒ速カニダマスクノ諸會堂ニ入
 リ傳道メイ、ス、ハ神ノ子也ト曰ヒシカバ衆驚キ互ニ相
 語テ曰ク此人ハ曾テイエルサリムニ在テイ、ス、ノ名ヲ
 呼フ者ヲ審逐セシ人ニアラスヤ此ニ來ルモ亦其人ヲ執ヘ
 テ以テ祭司長ニ致サンガ爲ニアラスヤト然レモサウルハ
 愈々剛毅敢勇ノ氣ヲ顯ハシダマスクニ於テイ、ス、ハハ
 リストス(メシヤ)也ト証ノ頻リニイウデヤ人ト辨論セリ

イウデヤ人大ニ驚テ惡計ヲ企タテシカハサウル之ヲ避
 ガ爲メニ先ツアラウヤニ遠サカリシガ後復タダマスクニ
 來リテハリストスノ事ヲ傳ヘリ是ニ於テイウデヤ人ハ愈
 々之ヲ殺サント謀ル然レモサウルハ豫メ此謀アルヲ
 知ル故ニイウデヤ人ハ其ノ己ノ掌中ヨリ脱出センヲ恐
 レテアラウヤ王アレタノ命ヲ奉シテ此地ヲ治ムル所ノ地
 方長官ニ請フテサウルヲ執ヘンヲ求メタリ且ツ日夜ダ
 マズクノ門ニ來リテサウルヲ窺ヒ之ヲ逃脫スルヲ能ハザ
 ラシム然ルニ門徒等夜間サウルヲ筐中ニ入レ城壁ヨリ下シ
 以テ危難ヲ免レシメタリ抑此事タルヤサウルガ歸教セシ

ヨリ僅カニ三日ノ後ナリキサウルハイエルサリムニ至リ諸
 門徒ニ就カント欲セシガ衆ハ未タサウルカハリストス
 ノ門徒トナリシヲ信セスメ之ヲ恐ル故ワルナワ之ヲ援
 テ使徒ペートル及ヒ主ノ兄弟イヤコフノ處ニ至リ備サニ
 之ニ語グルニ主カ途ニ其前ニ顯ハレテ之ト談話セシヲ及ヒ
 其ノダマスクニ於テ侃々イ、ス、ノ名ヲ稱セシヲ等ヲ以テ
 セリ是レヨリサウルハ常ニ諸使徒ト偕ニイエルサリムニ
 在テ侃々トシ主イ、ス、ノ事ヲ稱道シ且ツグレチヤ語ヲ
 言フ所ノエウレ一人ト頻リニ辨論シタリシカ彼ハサウル
 ニ向テ非謀ヲ企タテタリ然ルニ主ハサウルノイエルサリ

ムニ留ルハ其宜キ所ニ非ラザル故其事ヲ示シタリ一日サ
 ウルハ神殿ニ於テ祈禱ヲナセシニ忽チ主ヲ見タリ主乃チ
 之ニ謂テ曰ク遅々スル勿レ速ニイエエルサリムチ出ツベシ
 何トナレハ此地ノ者ハ爾ガ我事ヲ証スルヲ信セサンバ也
 トサウル答テ曰ク主ヤ我曾テ爾ヲ信スル者ヲ獄ニ繫キ會
 堂ニ於テ之ヲ毆撃シ又爾ノ証者ステハンノ生血流出スル
 チ見テ之ヲ稱賛シ之ヲ殺セシ者ノ衣ヲ守リシヲアリ衆人
 ハ皆善ク之ヲ知ルト然ルニ主ハ之ニ謂テ曰ク往ケ我爾ヲ遣
 シ異邦ニ遣スベシト斯ノ如クサウルハイエエルサリムニ在
 リテペートルノ家ニ留ルヲ僅カニ十五日ニ過キザリシガ

諸兄弟ハサウルヲ殺サント圖ル者アルヲ知リ之ヲケサリ
 ヤニ遣ハシテ其ノ卿里タルスニ送リタリ

第五 使徒ペートル病者エチヲ醫スル事○タワイハ

チ復活スル事○行實九ノ三十一至四十三

當時イウテヤガリレヤ及ヒサマリヤ等ノ教會ハ皆平穩ニ
 ヲ信者ハ事ヲ執リ且ツ教訓スルニ皆神ヲ畏ルノ心ヲ以テ
 シ又聖神ノ慰ヲ得テ人員大ニ増加セリ
 ペートルハ各地方ヲ周行シ信者ノ教會ヲ視察ソリツタニ
 至ル此ニエチト云フ者アリ中風ヲ患テ床ニ臥スヲ既ニ
 八年也ペートル之ニ謂テ曰クエチイヤ主イ、ス、ハリス

トス爾ヲ愈ス其臥床ヨリ起ツベシト其人忽チ起テリリツ
 及ヒ隣邑サロンノ人民之ヲ見テ主ニ歸スル者甚ク多シ
 又イナツビヤニタワイハト云フ一女徒アリ善行多ク好テ施
 濟ヲ行ヒシガ此時會々病テ死ス因テ其屍ヲ洗テ之ヲ室ニ
 置キタリ抑リツタトイナツビヤト相距ルヲ甚ク遠カラス
 故ニ門徒等ペートルカリツタニ在ルト聞キ二人ヲ遣シテ
 其ノ速カニ來ラソフヲ求メタリペートル乃チ急ニ之ト共
 ニイナツビヤニ至レハ衆之ヲ引テ室内ニ入リシカ婆婦數
 人涕泣メペートルニ就キタワイハカ存生中此數婦ト與ニ裁
 縫セシ所ノ衣服ヲ出メ之ニ示セリペートル衆ヲ室外ニ出

メ獨跪イテ祈禱ヲ爲シ屍ニ向ヒ謂テ曰クタワイハ起ヨト死
 者忽チ目ヲ啓キペートルヲ見テ坐セシカハペートル其ノ
 手ヲ執リ之ヲ起タシメテ諸婆婦及ヒ其他ノ信者ヲ召ヒ復
 活セシ所ノタワイハヲ見セシメタリ此事早ク全イナツビヤ
 ニ聞エ之ニ因テ主ヲ信スル者モ亦甚ク多シペートルイナ
 ツビヤニ在リテ久シク皮工シモンノ家ニ逗留セリ

第三分類

ケサリヤ及ヒアンテオヒヤノ異教人ノ景况

第一〇使徒ペートルカ百夫長コルチリイ及ヒ其全

家ニ洗禮ヲ授クル事〇行實十ノ一至十一、十八

ケサリヤニコルチリイト云フ者アリイタリヤト号スル隊

ノ百夫長ナリ此人恭虔ニシテ神ヲ畏レ其一家モ亦舉テ虔敬
 ニシ善ク民ニ仁惠ヲ施シ常ニ神ニ祈禱ヲ行ヘリ一日己ノ
 家ニ在テ第九時(午後三時)ニ祈禱ヲ行ヒシ時忽然主ノ使顯
 レ言テ曰クコルチリイヤコルチリイヤ長怖メ之ヲ見言テ曰
 ク主ヤ何事ヅ天使曰ク爾ノ祈禱及ヒ爾ノ施濟ハ神ノ爲メ
 ニ記念セラレタリ早ク人ヲイテツビヤニ遣シペートルト
 稱スルシモンヲ招クヘシ彼ハ今皮工シモンノ家ニ在リ其
 家ハ海ヲ距ルコト遠カラス其人來リテ必爾ニ語ルニ爾ノ全
 家舉テ救ヲ得ルノ道ヲ以テセント天使去リシ後コルチリ
 イハ二僕ト一人ノ虔敬ナル軍士ヲ招キ詳カニ此事ヲ語ケ

テ之ヲイテツビヤニ遣ハセリ明日彼等往テ(イテツビヤ一
 名ハヤツハケサリヤノ南八里ニアリ)將ニ都ニ近ツカント
 セシキ適々ペートル祈禱センカ爲メニ午時屋上ニ昇リシ
 カ饑ヲ覺テ食セント欲スペートル食ニ向ハントスル時忽
 チ頭上ニ天開ケ四隅ヲ繫ギシ所ノ大布ノ如キ者地ニ降ル
 チ見ルニ地上ノ四足畜類各種及ビ鳥獸爬蟲アリ其時聲ア
 リ命シテ曰クペートルヤ起ヨ當サニ之ヲ殺シテ食フヘシ
 トペートル答テ曰ク主ヤ然ラス我未ダ曾テ醜惡不潔ノ物
 チ食ハスト再ヒ聲アリテ曰ク神ノ以テ潔シトナス所ノ者
 ハ爾之ヲ不潔トナス勿レトペートル其言ヲ聞クコト三次ニ

至ル其後器復タ天ニ昇レリペートル此現象ヲ見テ私カニ
 思ヲク是レ何ノ意ナルヤト時ニ俄カニケサリヤノコルチ
 リイノ使者シモンノ家ヲ尋ネ來リテ其門ニ立テ呼ヒ問テ
 曰クペートルト稱スルシモンハ是ニ在リヤト時ニ聖神ベ
 ートルニ言テ曰ク今三人來リテ爾ヲ尋ヌ爾下リ共ニ往テ
 毫モ之ヲ疑フコナカレ何トナレハ此人ハ我ノ遣ハセシ所
 ノ者ナレハ也トペートル乃チコルチリイノ使者ヲ迎ヘ言
 テ曰ク爾ハ我ヲ訪フ者ナル歟爾ノ來ルハ何ノ爲メソヤ使
 者答テ曰ク百夫長コルチリイハ義人ニシテ神ヲ畏ル、者也
 全イウデヤ人皆之ヲ稱揚ス此人嘗テ神使ノ命ヲ蒙リテ將

ニ爾チ己ノ家ニ招キテ爾ノ言ヲ聞カントストペートル乃
 チ之ヲ己ガ室ニ入テ之ヲ饗シ明日イヲツピヤノ諸兄弟中
 六人ヲ伴フテ使者ト供ニケカリヤニ往キ次日之ニ達セリ
 コルチリイハ頻リニペートル等ノ到着ヲ待チ既ニ親戚朋
 友ヲ己ノ家ニ招集セリペートル至リテ其家ニ入リシカバ
 コルチリイ之ヲ迎テ其足下ニ伏スペートル之ヲ扶ケテ曰
 ク起ヨ我モ亦人也ト乃チ室内ニ入ルペートル此ニ集ル者
 甚タ多キヲ見又謂テ曰クイウデヤ人カ他種族人ト交際ス
 ル能ハザルハ爾ノ能ク知ル所也然レモ神ハ已ニ我ニ示シテ
 一人ヲモ惡人或ハ不潔ノ人ト稱ス可カラサラシム是ヲ以

ニクキヒト

テ我ハ爾ノ請ヲ辭セヌメ此ニ來レリ爾何ノ爲メニ我ニ迎
 ヘシヤ請フ之ヲ示セヨトコルチリイ答テ曰ク前四日我禁
 食シ第九時ニ及テ祈禱ヲナセシ時忽チ皎服ヲ衣タル人我
 前ニ立チ謂テ曰クコルチリイヤ爾ノ祈禱ハ既ニ神ノ聽ク
 所トナレリ爾ノ施濟ハ神前ニ記念セラレタリ故ニ今人ヲ
 イチツピヤニ遣シペートルト稱スルシモンヲ迎ヘヨ彼ハ
 今海濱ニ住スル皮工シモンノ家ニ在リ彼レ將ニ來リテ爾
 ト語ラントスト因テ我直ニ人ヲ爾ノ所ニ遣ハセシ也爾ノ
 來ルハ誠ニ善シ今神前ニ於テ我儕盡ク神ノ爾ニ示セシ
 事聽カントペートル言ヲ發シ曰ク今我レ誠ニ知ル神ハ貌

以テ人ヲ取ラザルコト凡テ民中神ヲ畏レ義ニ因テ行フ
 者ハ皆神旨ニ適フ者也神ノイズライリ諸子ニ傳ヒシ所ノ
 言ハ即チ萬物ノ主イ、ス、ハリストスニ藉テ神ト平和ス
 ルノ福音也夫レ斯ノ福音ハイチアンノ傳ヒシ洗禮ノ後ガ
 リレヤヨリ始マリテ全イウデヤニ及ヘル事ハ爾等既ニ知
 ル所也即チ神ハ聖神ト能力トヲ以テナザレトノイ、ス、
 ヲ膏シ又此ノイ、ス、ハ周行ノ魔鬼ニ惱マサル、者ヲ醫シ
 且ツ善ヲ行ヘリ我儕ハ即チイ、ス、ノイウデヤ地方及ヒ
 イエルサリムニ於テ行ヒシ所ノ事跡ヲ証スル者也然レモ
 衆人ハイ、ス、ヲ木ニ懸テ之ヲ殺セシカ神ハ第三日ニ之

ナ復活セシメ且ツ之ヲメ衆ノ前ニ顯ハレズメ唯神ノ爲メ
 ニ預選セラレタル証者即我儕ノ前ニ顯ハレシメタリ我儕
 ハ即チイ、ス、ノ復活セシ後之ト共ニ飲食セシ者也イ、
 ス、ハ又我儕ニ命シテ彼ノイ、ス、ハ生者死者ノ神ヨリ
 定メラレタル審判者タルヲ衆ニ傳ヘシム諸ノ預言者ハ皆イ
 ヲス、ノ事ヲ証シテ之ヲ信スル者ハ皆必其名ニ因テ諸ノ
 罪惡ヲ赦サルベシト言ヘリトペートル未ク此言ヲ終ヘザ
 ルニ聖神ハ道ヲ聽ク所ノ者ニ降臨シケレハペートルト偕
 ニ來リシ所ノ割禮ヲ受ケシ信者モ聖神ノ異邦人ニモ降臨
 セシヲ見テ大ニ駭ケリ何トナレハ彼等皆方言ヲ以テ神ノ

光榮ヲ讚美セシヲ以テ也時ニペートル謂テ曰ク我儕ニ同
 シク聖神ヲ受ケシ者ニ水ヲ以テ洗禮ヲ施サソニ誰カ敢テ
 之ヲ禁センヤト是ニ於テイウデヤノ風ニ倣ヒ割禮ヲ施サ
 スノ直チニ主ノ名ヲ以テ洗禮ヲ受ケシメタリ其後衆ハペ
 ートルニ請テ數日此ニ留ラシメタリ
 異邦人モ亦神ノ道ヲ受ケタリトノ風説既ニイウデヤニ
 在ル所ノ使徒ニ達シケレハペートルカイエルサリムニ
 來ルニ及テ割禮ヲ受ケシ者等皆之ヲ詰リテ曰ク何ヲ以
 テ割禮ヲ受ケサル者ノ處ニ往テ之ト偕ニ食スルヤトペ
 ートル徐カニ其事ヲ述テ曰ク我イラツビヤニ在テ祈禱

ナナス時默示中ニ大布ノ如キノ器天ヨリ我カ前ニ降ル
 テ見ル其中ヲ視ルニ皆地上ニアル所ノ野獸爬蟲飛鳥也
 且ツ聲アルヲ聞ク曰クペートルヤ起ヨ屠テ之ヲ食ヘト
 我答テ曰ク主ヤ然ラス我未タ曾テ醜惡不潔ノ物ヲ食セ
 スト其時又天ヨリ聲アリテ曰ク神ノ清潔トナス所ノ者
 ナ以テ不潔トナス勿レト我レ是ノ言ヲ聞クト既ニ三次
 ニ至ル而ノ物復々尽ク天ニ昇レリ此時ケサリヤヨリ來
 ル所ノ旅客三人我ガ寓舎ヲ訪ヘリ時ニ聖神我ニ命シテ
 曰ク急ニ彼ノ三人ト偕ニ往クヘシ疑フト勿レト我レ乃
 ナ兄弟六人ト偕ニ途ニ上レリ我儕其人ノ家ニ到ルヤ彼

レ詳カニ我ニ告ルニ天使現レテ之ニ語ケ速ニ人ナイナ
 ツビヤニ遣メシモンペートルヲ招クヘシ彼ハ將ニ爾及
 ヒ爾ノ全家ノ皆救ヲ得ヘキ道ヲ説カントスト言ヒシ事
 ナ以テセリ我レ口ヲ啓キシ時聖神ハ彼ノ衆ニ降臨スル
 ト初メ我儕ニ於ケルカ如ク然リ其我レ主ノ嘗テ言ヒシ
 トヲ憶フ曰クイテアンハ水ヲ以テ洗禮ヲ施セリ然レモ
 爾等ハ必聖神ヲ以テ洗禮ヲ受ケント夫レ神ハ彼ノ衆ニ
 賜與スルト主イ、ス、ハリストズヲ信スル者ニ賜フカ
 如ク然リ我儕何人ソ豈能ク神ニ逆フトヲ得ンヤ衆之ヲ
 聞テ乃チ鎮止シ且ツ神ヲ讚揚メ曰ク神ノ異邦人ニ改悔

ヲ賜フハ以テ之ニ永久ノ生命ヲ得セシメンガ爲メ也ト

第二 アンテオヒヤニ於テ異邦人ノ歸教スル事○

ハリステアニンノ名稱ノ事○行實十一ノ二

十至三十

此時ニ當リキブル及ヒキリチヤ人ノアンテオヒヤニ來リ
テエルリニノ異邦人ニ主イ、ス、ハリステスノ事ヲ傳フ
ル者アリ且神モ之ヲ保翼シタリシカバ主ニ歸スル者甚タ
多シ此事既ニイエルカリム教會ニ達セシニ因リワルナリ
ヲ遣シテアンテオヒヤニ往カシメタリ彼レ此ニ來リテ
神カ恩寵ヲ施スヲ見テ大ニ之ヲ喜ヒ衆ニ論シテ主ニ頼ル

必至心ヨリス可シト言ヘリ時ニハリステスノ教ヲ受ル者
愈増加ノ助教者ヲ要スルニ至リシカバワルナリハタルス
ニ赴キテサウルヲ伴ヒ來リ二人此地ノ教會ニ留リテ衆ヲ
教訓スル一周年也此ニ因テ主ニ歸スル者亦甚タ多カリ
キ時ニアンテオヒヤニ在ル諸門徒始メテハリステアニン
ト稱セリ

此時アガフト名クル一預言者アリイエルサリムニ來リ
テ天下將ニ大ニ饑エントスト言ヘリ因テ諸門徒相議シ
各其ノ餘ス所ヲ醱集シ以タイウデヤニ在ル諸兄弟ヲ濟
ハント欲シワルナリ及ヒサウルニ囑シ其醱集物ヲイウ

デヤノ長老ニ寄セ以テ其事ヲ行ハシメタリ

第四分類

イロドアグリツパカハリストス教會ヲ窘

逐スル事○イロドガゼワエデイノ子イヤコ

ヲテ殺ス事○ペートルカ獄ニ繫カル事○

神使カペートルヲ脱セシムル事○窘逐者

天譴ヲ蒙ムル事○行實十二章

此時大イロドノ孫イロドアグリツパ王ハシラウデイノ寵
遇ニ因テ尽ク祖父ノ王國ヲ管領シ教會ニ属スル者ヲ窘逐
シタリ嚮ニ劔ヲ以テイチャノンノ兄弟イヤコヲ殺シイウ
デヤ人ノ之ヲ喜フヲ見テ又ペートルヲ執ヘタリ然レニ此日

ハ「パスバ」祭日ナリシカハ乃チ之ヲ獄ニ繫キ兵卒十六人ニ
命シテ之ヲ守ラシメ將ニ除酵祭ノ終ハルヲ待テ民前ニ引
出サントス時ニ教會之ガ爲メニ熱心ノ神ニ祈禱セリ末日
ニ至テペートルハ二箇ノ鉄鎖ニ繫カレテ兵卒二人ノ間ニ
睡リ衛卒ハ門前ニ立テ獄ヲ護ルヲ甚ク嚴ナリ時ニ忽チ光
リ有テ獄ヲ照シ主ノ使者現ハレペートルノ腋ヲ拊チ之ヲ
醒メ曰ク速ニ起ヨト鉄鎖忽チ其ノ手ヲ脱セリ神使又曰ク
帶チ束子履チ着クヘシトペートル即チ之ヲ整フ神使又曰
ク服チ着ケ我カ後ニ從ヘヨトペートル即チ之ニ從フ第
一第二ノ衛所ヲ過キテ城ニ達スル所ノ鐵門ニ至レハ其門

自ラ開キ入テ一街ヲ過キシ時神使忽チペートルヲ離レタリ
 ペートル此ノ事ニ會フ其心恍乎トノ夢裏ニアルカ如クナリ
 シガ此ニ至リ始メテ覺リテ曰ク今我レ始メテ知ル神ハ使
 チ遣シテ我ヲイロドノ掌中ヨリ救ヒ出セシテ是レイウデ
 ヤ人ノ希望ハ既ニ徒爲ニ歸セリト是ニ於テマルクト稱ス
 ルイチアンノ母マリヤノ家ニ來リ其門ヲ叩キシカハロダ
 ト云ヘル婢出テペートルノ聲ヲ聞キ喜ニ堪ヘスメ門ヲ開
 クニ及ハス直ニ趨リテ内ニ入り祈禱ノ爲メニ集合セシ衆
 信者ニペートルカ門外ニ立ツト報セシカハ衆皆曰ク爾狂
 セシニアラスヤト然レモ婢ハ固ク執リテ曰ク眞ニ是也ト

衆曰ク是レ蓋神使ナラン時ニペートル門ヲ叩テ止マス衆
 遂ニ門ヲ開キペートルノ立テルヲ見テ皆大ニ驚キ異シム
 ペートル乃チ主ノ已チ獄ヨリ引出セシヲ語ケ且ツ此事
 チ以テイヤコフ及ヒ諸兄弟ニ告シヘシト云ヒ出テ他處ニ
 行ケリ明且ニ及テ兵卒中大ニ騷擾セシガ一人トシペー
 ルノ往ツ所ヲ知ル者ナシイロドアグリツパハ嚴命ヲ下シ
 テ徧チ之ヲ搜索セシメシガ更ニ其踪跡ヲ知ル能ハザリキ
 此ニ因テ遂ニ令メ衛卒ヲ刑セシメタリ其後王ハケサリヤ
 ニ赴キテ逗留セリ王嘗テ大ニテル及ヒシドン人ヲ怒ル
 アリ然レモ二國ノ人民ハ其常ニイロトノ領地ヨリ穀ヲ輸

致セシテ以テカメテ之ト和セノヲ謀リ王ノ内臣ウラス
 トニ頼リテ其間ヲ彌縫セノヲ求メタリ是ニ於テイロト
 ハローマ帝ノ爲メニ祭ヲ行ヒ命シテ其使者ヲ劇場ニ引見
 セリイロトハ金銀絲繡ノ王服ヲ衣テ高壇ニ坐シ日光之ヲ
 射テ其光榮燦爛タリイロト使者ニ向テ發言セシ時民ハ之
 ヲ見テ呼テ曰ク是レ神ノ聲ニシテ人ノ聲ニアラストイロト
 ハ神ニ逆ラ所ノ諛言ヲ喜ンデ民ノ叫ブヲ制セズ故ニ神使
 ノ怒テ毆ツ所トナリ忽チ病ニ感セシ故命シテ己ヲ載セ歸
 ラシム然レモ遂ニ蟲ノ爲メニ噬マレ後五日ニシテ死セリ
 時ニハリストスノ道大ニ傳播セリ是ヨリ前二年ローマ

大ニ饑エタリシガイロトアグリツバ死メ後イウデヤノ
 地モ亦饑ユ然レモワルナワ及ヒサウルハアンテオヒヤ
 ヨリ濟物ヲ携ヒ來ルニ因テイエルサリムノハリステア
 ニンハ幸ニ此危厄ヲ免ル、ヲ得タリ二人ハ己ニ門徒等
 カ委嘱ノ事ヲ畢ハリマルクト稱スルイヲアンヲ携ヘテ
 復タアンテオヒヤニ返レリ
 其后數日ヲ經テ至聖童女マリヤ登遐シタリ諸使徒之ヲ
 ゲフシマニヤニ葬リシニ第三日ニシテ其墓中ニ屍ヲ失セ
 リ蓋体ト與ニ天ニ昇レル也其後諸使徒ハ福音ヲ傳フル
 ガ爲メニイエルサリムヲ去テ諸方ニ散行セリ

第五分類 聖使徒パウエルノ功蹟

第一 聖使徒パウエルワルナワト共ニキプル及ヒ

小亞細亞ニ第一ノ旅行ヲナス事○行實十

三十四章

アンテオヒヤ教會ニ預言者及ヒ感神ノ教師數人アリ其ノ
務ヲ行ヒ且ツ禁食セシ時ニ當リテ聖神(蓋此ニ在ル預言者
ノ中一人ノ口ヲ藉リテ)之ニ謂テ曰ク我カ爲ニワルナワト
サウルトヲ甄別シ我ノ之ニ命スル事ヲ行ハシメヨト是ニ
於テ預言者及ヒ教師等ハ禁食ト祈禱トヲ畢リ接手ノ之ヲ
分遣セリ二人乃チワルナワト甥イサアンマルクヲ携ヒ聖

神ノ旨示ニ因テワルナワトノ郷里キプル島ニ赴ケリ
二人全島ヲ周行シ道ヲ傳ヒキプルノ西邊ニ在ル所ノパフ
都ニ至ルニイウテヤノ僞預言者ワリイニス、ト云フ一巫者
アリ總督セルギイパワエルニ屬セリ其總督ハ智能ノ士ニシ
ワルナワト及ヒサウルヲ招キ將ニ其道ヲ聽カントセシガ巫
者此二人ヲ拒ミ總督ヲシテ其道ヲ信セサラシメントテ謀レリ
其時サウルハ(サウル此時ヨリパワエルト稱ス)聖神ニ充盈シ
注目ノ之ヲ視テ曰ク嗚呼詐譎ナル姦惡者、魔鬼ノ子孫、正理ノ
仇敵ヤ爾ハ主ノ正道ヲ乱シテ止マザル乎今主ノ手爾ノ上
ニアリ爾當ニ盲者トナリテ暫ク天日ヲ見ルヲ得サルベシ

ト巫者忽チ目盲メ視力ヲ失ヒ匍匐ノ相者ヲ求メシカバ總督ハ此奇蹟ヲ見テ直ニ主ノ教ヲ信シタリ

パウエル同行者ト與ニパフヨリバムヒリヤ海ノ北岸ベルギヤ都ニ赴キイナアンマルクハ之ニ別レテイエルサリムニ歸レリ

パウエルハワルナワト與ニ北方ニ往キピシデヤノアンテオヒヤニ到レリ時ニ會安息日ナリシカバ會堂ニ入テ坐シモイセイノ法律及ヒ預言書ノ講讀畢リシ時會堂長ハ人ヲメ之ニ謂ハ使テ曰ク兄弟ヤ若シ民ニ勸誡スルノ言アラハ宜シク演述スヘシトパウエル即チ起テ説テ曰クイズライリ人

及ヒ神ヲ畏ル、者ヤ宜シク聽クヘシ昔、神ハ我父祖ヲ選ミ我民エキペトノ地ニ到リシ時其民ヲ舉揚シ奇蹟ヲ以テ之ヲ率テ此地ヨリ出テシメ之ヲ曠野ニ養フ概チ四十年既ニシハナアンノ地ニ於テ七種ノ民ヲ滅シ闔ノ其地ヲ我民ニ割與シ之ニ裁判者ヲ與ヘテ預言者サムイルノ時ニ至レリ彼等神ニ王ヲ賜ハンコチ請ヒシカバ神乃チ之ニサウルヲ與ヘリ既ニシ之ヲ廢メダワイドヲ以テ王ト爲シ且ツ神自ラ之ヲ証ソ曰ク我ハ我ノ心ニ合フ人ヲ得タリ
列王記十四
ト神ハ之ニ其子孫ヨリイズライリ人中ニ救世者イ、ス、ナル者ヲ舉ゲンコチ約セリイ、ス、ノ出現スルニ先チテ

イチアソハイズライリノ全民ニ改悔ノ洗禮ヲ傳ヒ且ツイ
 、ス、ノコヲ言テ曰ク抑々我ヨリ後レテ來ル者アリ我其
 足履ヲ解クモ亦耐ヘサル也トアウラムノ後裔ナル兄弟ヤ
 此救世ノ事ノ宣示ハ今爾及ヒ爾ノ中神ヲ畏ル者ニ關スル
 也何トナレハイエルサリムノ住人及ヒ其長官等ハ皆ハリ
 ストスヲ承認セスノ之ヲ定擬シ遂ニ安息日毎ニ讀ム所ノ預
 言者ノ言ヲ應セシメハリストスヲ死刑ニ處スヘキ罪案ナ
 シト雖モ彼等遂ニピラトニ請テ之ヲ殺シ又之ヲ木ヨリ下
 ノ之ヲ墓ニ葬レリ唯神ハ之ヲ死ヨリ復活セシメ其事
 皆預言ニ適應セリ又彼ノイ、ス、ハ數日ノ間其証者ノ前

ニ現ハレタリ夫レ我儕ハ爾等ニ福音ヲ報セン昔神ハイ、
 ス、復活ノ約束ヲ以テ我儕ノ父祖ニ賜ヒシガ其子孫ナル
 我儕ニ至リテ遂ニ之ヲ成就セリ兄弟ヤイ、ス、スニ頼リ爾
 ノ罪惡ヲ赦サル、ハ爾ノ固ヨリ善ク知ル所也モイセイノ
 法律ニ頼リ罪赦ヲ得ル能ハザル所ノ者モ此人ヲ信スレハ
 皆赦ヲ得ル也ト二使徒イウデヤノ會堂ヲ出ルキ異邦人ハ
 之ニ請フテ次回ノ安息日ニ於テ再ヒ此事ヲ説カンコトヲ求メ
 タリ時ニ異邦人ヨリ歸教メ神ヲ崇奉スル者及ヒイウデヤ
 八數人ハ二人ニ從テ其家ニ往キシガ二人ハ之ニ懇論ク善
 シ福音ヲ守ルヘキヲ説ケリ次回ノ安息日ニ至テ全都悉ク

集合ノ將ニ神道ヲ聽カントス然ルニイウデヤ人等衆ノ集
 合セシヲ見テ媚嫉ニ堪ヘスバワエルニ抗言ノ其言ヲ誹謗セ
 シカババワエルワルナワ毅然トシテ謂テ曰ク我ハ當サニ先
 ツ爾ニ神道ヲ傳フヘシ然レニ爾ハ之ヲ棄テ、自ラ永久ノ
 生命ヲ得ルヲ欲セス故ニ我儕今將ニ異邦人ニ向テ之ヲ
 説カントス主ノ我ニ命セルヲ蓋斯ノ如シト異邦人之ヲ聞
 キ大ニ喜テ福音ノ教ヲ讚美シ永久ノ生命ヲ得ルニ預定セ
 ラレシ者ハ皆之ヲ信セリ
 主ノ道徧ク此地ニ傳播セシカハイウデヤ人ハ之ヲ見テ
 敬虔ナル貴嶺及ヒ都府中ノ有名ナル者ヲ誑誘シバワエル

及ヒワルナワヲ審メテ之ヲ境外ニ逐出セリニ使徒乃チ
 衆ニ向テ足座ヲ拂ヒ去リテリカチニヤノ首都イコニヤ
 ニ赴ケリ時ニ聖神ハ此ニ留ル所ノ門徒ヲ慰藉セリ二人
 イコニヤニ來リ相與ニイウデヤノ會堂ニ入リテ傳道セ
 シカハイウデヤ人及ヒエウリン人ノ之ヲ信ズル者甚ク
 衆シ二人久シク此地ニ留リ奇蹟ヲ行ヒ以テ其ノ傳道ヲ
 証セリ然レニ不信ノイウデヤ人ハ信者ニ向テ異邦人ヲ
 煽動セシ故ニ都人ハ二派ニ分レテ一ハイウデヤ人ニ從
 ヒ一ハ使徒ニ從ヘリ異邦人及ヒイウデヤ人等ハ其首長
 ニ從テニ使徒ノ家ニ赴キ將ニ之ヲ窘辱シ石ヲ以テ之ヲ

殺サントセシカハ二人ハ逃レテリカチニヤノ都リス
 トラ^ルワイヤ及ヒ其近傍ノ地ニ赴キテ福音ノ道ヲ傳ヒタ
 リ
 使徒パウエルハワルナワト共ニリカチニヤノ一都リストラ
 ニ在テ道ヲ傳フ時聽者ノ中ニ生レナカラニソ跋ナル者ア
 リシカ使徒其人ノ敬虔ニソ神ノ佑助ヲ望ムヲ甚ク切ナル
 ナ見高聲ニ之ニ謂テ曰ク起テ足ヲ以テ直立セヨト此人躍
 起ソ歩行セシカハ衆皆此奇蹟ヲ見テ大ニ叫テ曰ク諸神ハ
 人体ヲ藉リテ我儕ニ降臨セリトワルナワハ素ヨリ年長ク
 且ソ身高ケレハ衆ハ之ヲ稱ソデイ(ユピテル)ト曰ヒパウエル

ハ善ク言辞ヲ爲スヲ以テ之ヲ稱メユルミイ(メルクリイ)ト
 曰ヘリ時ニ都門ノ傍ナルユピタルノ祠司ハ幘ト花冠トヲ
 携ヒ來リ以テ獻祭ヲ爲サント欲シ人民ハ之ヲ稱揚スルニ
 リカチニヤノ方言ヲ以テセシカ使徒ハ之ヲ解セザレド祠
 司ノ獻祭物ヲ携ヒ來ルニ及テ始メテ己ヲ祭ル事タルヲ知
 リ自ラ其ノ衣ヲ裂キ之ヲ群民中ニ投シ叫テ曰ク都人乎爾
 何ソ之ヲ行フヤ我儕モ亦人也爾ニ異ナラス我儕ノ傳道ス
 ルハ爾等ヲソ此ノ如キ妄信ヲ改メテ永活ノ神即、森羅萬象
 ナ造リシ者ヲ崇奉セシメンガ爲メ也神ハ縱令、昔日、諸民ヲ
 許シテ各其道ニ依テ行カシメタリシモ常ニ仁惠ヲ以テ己

ノヲナ証セリ即チ天ヨリ雨ヲ降シ果實ヲ豐熟ナラシメ我
 儕ニ與フルニ糧食ヲ以テシ我儕ヲメ心中喜悅ニ堪ヘサラ
 シムト二人斯ノ如ク之ヲ説諭メ僅カニ民ヲノ獻祭ヲ止メ
 シメタリ
 二使徒此地ニ留リテ傳道セシ時イウデヤ人ノ此ニ來ル
 者アリ是レ曾テアンテオヒヤ及ヒイコニヤニ於テ二使
 徒ノ説ク所ハ眞理ニ反メ皆妄誕ナリト言ヒテ衆人ヲ騷
 擾セシメタル者也今又二使徒ニ抗抵メ衆ヲ激動セシメ
 石ヲ以テパウエルヲ撃チ其氣絶セシヲ見テ已ニ死セリト
 爲シ之ヲ都外ニ棄タリシガ諸門徒其側ニ集ルニ及ンデ

パウエル始テ蘇シ起テ城内ニ入り明日ウエルナワト與ニデ
 ルワイヤニ避ケタリ

二使徒デルワイヤニ在テ傳道セシニ其門徒ト爲ル者數人
 アリ歸途復タリストライコニヤ及ヒピスデヤノアンテ
 オヒヤニ至リ門徒ニ諭シテ堅ク信ヲ守ラシメ且ツ之ニ
 教テ曰ク神國ハ諸ノ艱難ヲ經テ始テ達スルヲ得ヘシト
 又各教會ニ於テ其ノ長老ニ接手シ禁食ノ以テ祈禱ヲ行
 ヒテ之ヲ主ニ托セリ二人遂ニパムヒリヤニ至リ海ニ航
 ノシリヤノアンテオヒヤニ赴ケリ是レ則チ先ニ神カニ
 人ヲ諸方ニ派遣セシ所也二人此ニ來リ教會ヲ集メ之ニ

語ルニ神カ此二人ニ藉テ行ヒシ事及ヒ神カ異邦人ニ信
ノ門戸ヲ開キシテ以テセリ二人ハ門徒ト共ニ此地ニ
久シク留マレリ

第二 聖パウエルイエルサリムノ使徒公會ニ參スル

事〇十五ノ一至三五

イウデヤ人ノ神ニ歸セシ者數人アンテオヒヤニ來リ異邦
人ノ神ニ歸セシ者ニ勸メテ曰ク爾等若シモイセイノ儀式
ニ依テ割禮ヲ受ケサレハ救ヲ得ル能ハストパウエル及ヒワ
ルナワ此ト論言シタリシカハイウデヤノ偽教師亦之ヲ辯
論セリ是ニ於テパウエルナルナワ及未タ割禮ヲ受ケサルテ

ト及ヒ其他數人ハ加拉書二 此事ニ因テイエルサリムノ諸

使徒及ヒ諸長老ノ許ニ赴ケリ

彼等イエルサリムニ至レハ教會及ヒ使徒長老ハ爲メニ之

ヲ迎ヘ因テ具サニ異邦人ヲ歸教セシメンカ爲メニ神ノ已

ニ藉テ行ヒシ事蹟ヲ語レリ此ニハリセイノ信者數人アリ

騒起ソ謂テ曰ク歸教シタル所ノ異邦人ニ必割禮ヲ行フベ

シ且ツ之ヲノモイセイノ法律ヲ遵奉セシメサル可ラスト

使徒及ヒ長老等此ノ事ノ爲ニ會合シ久シク相議セシガベ

イトル起テ謂テ曰ク兄弟ヤ爾宜シク知ルヘシ神ハ異邦人

ヲ我口ヨリ傳フル所ノ福音ノ道ヲ聽キ且ツ之ヲ信セシ

メソガ爲メニ我ヲ選ヒシ事ハ己ニ久シキヲ又人心ヲ洞知
 スルノ神ハ異邦人モ亦當サニ救ヲ得ヘキヲ示セリ何ト
 ナレハ神ハ毫モ彼我ノ差異ヲ立テズメ之ニ聖神ヲ賜フ
 亦我儕ニ異ナラザレバ也爾何爲ソ今門徒ニ負ハシムルニ
 我儕ノ父祖及我儕負フ能ハサル所ノ轆(モイセイ)ノ儀式法
 律(ナ)以テセント欲シテ神ヲ試ミルヤ我儕ハ彼等ト同シク
 主イ、ス、ハリストスノ恩寵ニ因テ救ヲ得ルヲ信スト時
 ニ全會沈黙ノ神、ウルナワ及ヒパウエルノ二人ニ藉テ異邦人
 ノ間ニ奇蹟ヲ行ヒシ事ヲ演述スルヲ聽キ二人其言ヲ畢ハ
 リシカハイヤコフ謂テ曰ク兄弟ヤ宜シク我カ言フ所ヲ聽

クヘシシモン(ペイトル)ハ異邦人ヲ取テ神ヲ崇奉スル者ノ
 中ニ加入スル事ハ神ノ喜フ所也ト言ヘリ是レ誠ニ預言者
 ノ言ニ符合セリ且ツ神ハ永世ヨリ己ノ行事ヲ預定ス故ニ
 我以爲ラク異邦人ノ歸教セシ者ヲ擾ス可ラス唯之ニ書ヲ
 移シテ偶像ニ獻セシ祭物ノ血ヲ以テ汚シタル食物其他淫
 行縊死ノ性及ヒ血ヲ戒ムヘシ
 コノ時使徒及ヒ長老等全教會ト相議シ其ノ中ヨリ數人ヲ
 選舉ソバウエル及ヒワルナワト與ニ之ヲアソテオヒヤニ遣
 サンイヲ決セリ即チワルナワト稱スルイウダ及ヒシラヲ
 選ミ書ヲ托ソ之ヲ遣セリ其書ノ畧ニ曰ク使徒長老及ヒ諸

兄弟皆アノテオヒヤ及ヒキリキヤニ在ル異邦ノ兄弟ノ爲
 メニ平安ヲ祈望ス我儕傳聞スル所ニ因レハ我儕中ヨリ派
 出セシ數人ハ爾ヲ擾動シ必割禮ヲ受ケ且ツ(モイセイ)ノ法
 律ニ遵奉スヘシト言フト我儕素ト此言ヲ以テ之ニ托セサ
 ル也故ニ我儕同心ニ會合協議メ我カ篤愛スル所ノパワエル
 及ヒワルナワト與ニイウダ及ヒシラチ爾ニ遣ス此人亦將
 ニ爾ニ演述スル所アラントス蓋シ偶像ノ祭物、血、淫行及ヒ
 縊死ノ牲等ハ必之ヲ禁戒スベシ其他ハ敢テ爾ニ困軛ヲ負
 ハシメズ是レ聖神及ヒ我儕ノ願フ所也トアノテオヒヤ
 衆人ハ書ヲ得テ大ニ喜ヘリ

ワルナワ及ヒパワエルト偕ニ遣ハサレシ預言者ノ中イウ
 ダハ數日ヲ經テイエルサリムニ還リシラハアノテオヒ
 ヤニ留マリテパワエルワルナワ及ヒ其他ノ數人ト共ニ神
 ノ道ヲ傳ヒタリ

第三、パワエルシラト與ニマケドニヤ及ヒグレチヤ
 地方ニ第二ノ旅行ヲ爲ス事〇十五ノ卅六至
 十八ノ十一

數日ヲ經テパワエルハワルナワニ向ヒ謂テ曰ク我儕曾テ
 神道ヲ傳ヒシ所ノ諸都ニ往テ兄弟ヲ訪ヒ其安否ヲ問フ
 ヘシトワルナワ己ノ甥イチアノマルクヲ携ヒ偕ニ行カ

ント欲セシカバワエルハ之ヲ肯ゼサリキ蓋此人ハ第一旅
 行ノ時途中ヨリ別レテイエルサリムニ歸リシヲ以テ也
 是ニ於テ悲嘆スベキノヲ起レリ蓋神ノ特意ニ出タリト
 雖ヒ大ナル傳道者二人互ニ相分離シタリワルナワハマ
 ルクヲ携テキプルニ赴キバワエルハ自ラシラヲ選ヒ之ヲ
 携テシリヤ及ヒキリキヤヲ經テ諸教會ヲ訪ハンガ爲ニ
 發向セリバワエルハリカチンノ都リストルニ於テ虔敬ヲ
 以テ名アル少者テモフェイヲ得又トロアドニ於テルカナ
 ル者ヲ得テ之ヲ携フ

バワエルハトロアドニ於テ夢ニマケドニヤ人其ノ前ニ立テ

マケドニヤニ來リテ我儕ヲ助ケヨト言フヲ見タリバワエル
 心ニ以爲ラク是レ必神ノ宣示スル所ナラント直ニマケド
 ニヤニ赴ケリ蓋福音ヲ傳ヒント欲ノ也往テマケドニヤノ
 首府ヒリビニ到リシガ敬神ノ一婦人アリリデヤト云フ紫
 衣ヲ嚮キ以テ業トナスバワエルノ傳道ヲ聞テ堅ク之ヲ信シ
 請テ同行者ト共ニ己ガ家ニ寓セシメタリ一日バワエル等都
 外ノ河岸ニアル祈禱所ニ至リシニト筮鬼ニ憑ラレシ一婦
 人ニ遇ヘリ彼ノ婦ハ自ラト占フ以テ大ニ其主人ヲ利スル
 者也婦人バワエル及ヒ其同行者ノ後ニ從ヒ行ク々、曰テ曰ク
 此諸人ハ至上神ノ僕ニシ我等ニ拯救ノ道ヲ示ス者也ト此

ノ如キヲ數日ナリシカハパウエル遂ニ鬼ニ向ヒ謂テ曰クイ
、ス、ハリストスノ名ヲ以テ爾ニ命ス爾此婦ヨリ出テヨ
ト鬼忽チ之ヲ離ル然ルニ婦ノ主人ハ婦ニ因テ得ル所ノ利
益己ニ失ナフヲ見テパウエル及ヒシラヲ執ヘテ市ニ往キ官
ニ至リ訴ケ曰ク此ノイウデヤ人ハ我都ヲ擾乱スル者也且
ツ其傳フル所ノ規律ハ乃チ我カローマ人ノ當サニ行フヘ
カラサル者也ト是ニ於テ人民群起メパウエルヲ攻ム長官命
シテ其衣服ヲ剥キ杖ヲ以テ之ヲ毆撃シ且ツ獄ニ繫キ獄卒
ニ命シテ堅ク之ヲ守ラシム獄卒乃チ之ヲ内牢ニ入レ木ヲ
以テ其足ヲ梏セリ夜半ニ至リパウエル及ヒシラ祈禱ソ詩ヲ

詠シ神ヲ讚美セシガ諸囚人皆之ヲ聞ケリ忽チ地大ニ震ヒ
獄基動搖ソ諸門尽ク開ケ囚人ノ桎梏皆尽ク解脱シタリ獄
卒覺メテ獄門ノ尽ク開キタルヲ見意ラシ囚人尽ク脱走セ
リト因テ劔ヲ拔テ將ニ自殺セントセシカハパウエル叫テ曰
ク爾自ラ戕フナカレ我儕此ニ在リト獄卒火ヲ求テ獄内ニ
入リパウエル及ヒシラヲ見驚テ其足下ニ伏シ二人ヲ誘テ外
ニ出シ謂テ曰ク我カ君ヤ我レ救ヲ得ルニ何ノ道アルヤニ
人曰ク主イ、ス、ハリストスヲ信スレハ則チ爾及ヒ爾ノ
一家皆救ヲ得ヘント是ニ於テ二人ハ其一族ニ主ノ道ヲ傳
ヒタリ獄卒ハ夜中ニ二人ノ傷ヲ洗ヒ急ニ學家ト共ニ洗禮

ヲ受ケ乃チ二人ヲ己ノ家ニ導キテ之ヲ饜シ全家主ヲ信シ
テ大ニ喜ベリ

次日長官ハ屬吏ヲ遣シ言ハシメテ曰ク彼ノ二人ヲ釋ス
ヘシト獄卒其ノ命ヲ以テパワエルニ告クパワエル謂テ曰ク
我儕ハローマノ士人也爾等一ノ裁判モナクノ猥リニ衆
前ニ於テ我儕ヲ毆辱シ且ツ獄ニ投セリ然ルニ今ニ至リ
テ私カニ我儕ヲ放免セント欲スル乎是不可也彼レ自ラ
來リテ我儕ヲ導クヘシト屬吏此言ヲ以テ長官ニ復命セ
シカハ長官ハ其ローマ人タルヲ聞キテ大ニ懼レ自ラ來
リ二人ノ前ニ於テ罪ヲ謝シ獄中ヨリ出シ且ツ之ニ請テ

都ヲ去ランヲ求メタリ二人乃チ獄ヲ出テ、リデヤニ
到リ諸兄弟ヲ訓戒メ去レリ

二人ハフエサロニカニ到リテ道ヲ傳ヒシカハイウデヤ人
及ヒ虔敬ナルエウリン人ノ此ニ在ル者ハパワエルノ言ヲ
聞キ難キ受ケ死ノ遂ニ復活セシ所ノイ、ス、ハリスト
スヲ信スル者甚タ衆シ然レモ不信ノイウデヤ人等ハ徒
ニ騷擾ノパワエル及ヒシヲ迎ヘシイアソソノ家ヲ攻ム
イアソソ讒カニ身ヲ以テ敵手ヲ脱シタリ諸兄弟ハ夜間
パワエル及ヒシヲ速カニウカリヤニ逃レシタリパワ
エル此地ニ赴テ神道ヲ傳ヒシニ多ク之ヲ信スル者アリ然

ルニ此事既ニフエサロニカノイウデヤ人ノ聞知スル所
 トナリシカハ彼等又此ニ來リテ人民ヲ騷擾セリ因テ諸
 兄弟ハパウエルヲ海邊ニ送リアヒンニ航行セシメタリ
 使徒パウエルハアヒンニ到リ全都悉ク偶像ヲ尊崇スルヲ見
 テ大ニ之ヲ愛ヒ或ハ會堂ニ入テイウデヤ人及ヒ新歸依者
 ナ説諭シ或ハ市街ニ出テ毎日逢遇スル者ハ何人ニ論ナク
 之ト論辨セリエビクロ及ヒストスノ理學者數人アリパウ
 エルト爭論ス一人曰ク此ノ妄誕者何ヲ言ハント欲スルヤト
 又一人曰ク此ノ人ハ異邦ノ神ヲ傳フル者也ト蓋此言ヲ發
 スルハパウエルカイ、ススノ事及ヒ其復活ノ事ヲ説キシテ

以テ也是ニ於テ衆パウエルヲ曳テ裁判廳ニ詣リ訊テ曰ク爾
 述フル所ノ此ノ新教ハ果ソ何等ノ旨意アルヤ我等之ヲ知
 ルヲ得ヘキヤ何トナレハ我等ハ爾ノ事ニ付キ奇怪ノ事ヲ
 傳聞セシテ以テ此事ノ何タルヲ知ラント欲スレハ也ト蓋
 アヒン人及ヒ此ニ住スル外國人等ハ皆新事ヲ語り奇報ヲ
 聽クヲ以テ徒ニ時日ヲ送レリパウエルハ廳中ニ立チ揚言ソ
 曰クアヒン人乎我爾等ヲ見ルニ爾等ハ誠ニ敬神者也何ト
 ナレハ我レ周ク爾ノ聖處ヲ巡ルニ祭壇上ニ未タ識ラサル
 ノ神ト題シタルヲ見タリ爾カ識ラスノ尊崇スル所ノ神我
 今之ヲ爾ニ告ケン夫レ世界及ヒ其間ニ在ル所ノ萬物ヲ創

造セシ神ハ即チ天地ノ主宰ナレハ人手ヲ以テ造營セシ禮
 拜堂ニ居ラス且ツ人手ノ勤メヲ要セス却テ衆ニ與フルニ
 生命ト呼吸及ヒ萬物トヲ以テス且ツ神ハ一血ヨリ萬民ヲ
 造リ之ヲ地上ニ散居セシメテ之カ爲ニ預メ時ト界トヲ定
 メタリ蓋彼等神ヲ尋ヌルニ願クハ揣摩メ之ヲ得ンガ爲メ
 也然レモ彼ノ主ハ我儕ヲ去ルヲ遠カラズ何トナレハ吾儕
 彼ニ頼テ生キ且ツ動キ且ツ存スレハ也蓋爾ノ詩人云ヘル
 アリ我儕ハ彼ノ子孫也ト夫レ斯ノ如ク己ニ神ノ子孫タラ
 ハ則彼ノ神ハ人ノ思想ヲ以テ技術者ノ手ヲ藉リ金銀木石ヨ
 リ造成セシ像物ニ等シト思フ可ラス然ルニ神ハ冒昧ノ時

之ヲ寛容ノ之ヲ責サリシガ今ハ乃チ衆人ニ諭シ其思想
 及ヒ生活ヲ改メシム蓋神ハ己ニ一日ヲ定メ期臻ラハ預定
 シタル人ヲ以テ公平ニ世界ヲ審判シ之カ爲メニ人ヲ死ヨ
 リ復活セシメ以テ衆ニ其証ヲ示サシト衆ハ死者復活ノ事
 ナ聞キ或ハ(蓋エビクレト人ナラン)笑ヒ或ハ(蓋ストイカ人
 ナラン)曰ク他日復タ此事ヲ爾ニ聞カントパウエル乃チ會場
 ナ出タリ是ニ於テ信者亦益々多ク其信者中ニ裁判廳委員
 デチニストト云フ者アリ後アヒンノ主教トナリタリ
 パウエルハアヒンヨリコリンブニ往キ自ラ勞シ食ヲ求ム
 即チ幕ヲ造ルヲ以テ業トナセリ安息日毎ニ會堂ニ入テ

イ、ス、ハリストスノ事ヲ傳フ然レモイウデヤ人ノ爲
 メニ妨害セラレシカパウエル自ラ衣ヲ拂ヒ言テ曰ク爾ノ
 血ハ爾ノ頭上ニ歸スヘシ我ハ決シ其血ニ關セサル也今
 後我レ將ニ異邦ニ行カントスト時ニ會堂長クリスパ及
 ビ其ノ全家其他コリンプ人等主ヲ信シテ多ク洗禮ヲ受
 ケタリ主夜間夢ニパウエルニ現ハレテ曰ク恐ル勿レ當ニ
 道ヲ傳フヘシ默止スルコト勿レ我爾ト偕ニス故ニ人ハ爾
 ニ向テ惡キ爲カス何トナレハ此都ニ於テ我レニ歸スル
 者多クレバ也トパウエル此ニ在ルコト一年半ニシリヤニ
 赴キエヘスケサリヤ及ヒイエルサリムヲ歴テ遂ニアン

テオヒヤニ歸レリパウエルイエルサリムニ來ルハ今回ヲ
 以テ四次トナス蓋祭時ニ臨ミテ教會ヲ訪ハンガ爲メ也

第四 使徒パウエル第三ノ旅行ヲ爲シテ囚繫セラレ

ローマニ赴ク事〇十八ノ二十三、十九章二十

第六章

數日ヲ經テパウエル途ニ上リガラデア及ヒフリギヤ教會
 ナ巡見ノエヘスニ至レリ此ニイチャアンヨリ洗禮ヲ受ケ
 シ生徒十二人アリ未ダ聖神ノ何者タルヲ知ラズ故ニパ
 ウエル之ニ謂テ曰クイチャアンハ唯改悔ノ洗禮ヲ以テ人ニ
 授ケ之ヲシ彼ヨリ後レテ來ル者即イ、ス、スハリストス

ナ信セシムト生徒之ヲ聞キ皆主イ、ス、ノ名ヲ以テ洗
 禮ヲ受ケバワエル之ニ接手セシカバ聖神之ニ降臨セリ故
 ナ以テ其人能ク異邦ノ語ヲ言ヒ且ツ預言セリ初メバワ
 ルハ會堂ニ入テ傳道スル殆ト三月間ナリシガ主ノ道ヲ
 信セス反テ之ヲ誹謗スル者多キニ因リ二年ノ間テラ
 ト云フ者ノ學校ニ於テ傳道セシカエヘスイウヂヤ及ヒ
 エウリンニ來リシ小亞細亞ノ人民等皆主イ、ス、ノ道
 ナ聞クヲ得タリ神ハバワエルニ藉テ奇蹟ヲ行フヲ甚タ
 多シ即チバワエルノ巾帶等ヲ以テ病者ニ被ラシムレハ其
 病立トコロニ瘡ニ惡鬼亦其人ヲ離ル是ヲ以テイウヂヤ

ノ巫者モ諸郡ヲ周リ惡鬼ニ憑ラレシ者ニ向ヒ主イ、ス
 ハノ名ヲ用ルニ至レリイウヂヤノ祭司長ニ七子アリ鬼
 ニ憑ラル、者ヲ呪詛メ曰クバワエルノ傳ル所ノイイス、
 ノ名ヲ以テ爾ヲ呪詛セント言ヒシニ惡鬼之ニ答テ曰ク
 我イ、ス、ヲ知ル又バワエルヲ知ル爾ハ果ソ何者タルヤ
 ト鬼ニ憑ラルル者遂ニ其人ヲ撃テ之ヲ倒シタリシガハ
 彼等裸体トナリ傷ヲ負フテ其家ヲ脱出セリ此事既ニエ
 ヘス人ノ知ル所トナリテ皆大ニ恐懼セリ故ニ信者ノ中
 往々來リテ己ノ所行ヲ申告スル者多シ又異術ヲ業トス
 ル者數人自ラ其貴重トスル秘藏書ヲ携ヒ來リテ衆ノ前

ニ於テ之ヲ焚キタリ
 此時ニ當リテパワエルニ向テ擾動スルデミトリイト云フ
 銀工アリ銀ヲ以テアニンノ禮拜堂ニ象トリテ籠ヲ作ル
 者也同業ノ職工ヲ集メテ謂テ曰ク諸君ヨ今日我等ノ生
 活ヲ得ル所以ノ者ハ全ク此工業アルニ因ル是レ爾ノ熟
 知スル所也然ルニ爾等自ラ見聞スルカ如ク彼ノパワエル
 ナル者ハ啻ニエヘスノミナラス全亞西亞ニ於テ凡ソ手
 ナ以テ造リシ神ハ神ニ非スト言テ人ヲ蠱惑シタリ今後
 必ス戒懼セサル可ラス蓋唯此ノ工業ノ輕忽セラル、ノ
 ミナラス必大女神アルテメダノ禮拜堂モ亦無用物トセ

ラノ全亞西亞及ヒ天下ノ尊崇スルアルテメダノ光榮モ
 亦必ス亡滅ニ歸セント衆之ヲ聞キ大ニ激動シ叫ンテ曰
 クエヘスノアルテメダハ實ニ尊大壯嚴也ト是ニ於テ全
 都擧テ騷擾セリ故ニ門徒及ヒ亞西亞長官ノパワエルト友
 タル者ハパワエルヲシテ民前ニ出ルナカラシム衆議紛々ト
 ノ甲非乙是喧囂一ナラス蓋大半ハ何ノ爲メニ集マル、
 ナ知ラザル也府長一人出テ人民ニ懇諭ソ曰ク若シデミ
 トリイ、工者及ヒ同業者訴訟ノ事アラハ則裁判所或ハ領
 事館ニ訟フヘシ若シ我言ヲ聽カズン妄リニ集會噪囂セ
 ハ我ハ之ヲ目ノ暴動トナサント

パワエルハエヘスヨリマケドニヤチ巡行ノ少レチヤニ到
 ルコリンプロ留ル三月ニ歸路マケドニヤチ經テト
 ロアダニ來レリ一週日ノ首日ニ於テ門徒集リテ將ニ聖
 体機密チ行ハントスパワエル之ト講談メ夜半ニ至リシガ
 エフテフト云ヘル少者窓上ニ坐シ熟睡シ身動キ三層樓
 上ヨリ頓墜セシカハ皆下リテ之ヲ扶クルニ少者ハ既ニ
 死セリパワエル樓チ下リ其ノ上ニ伏シ之ヲ抱キ衆ニ言テ
 曰ク驚動スル勿レ此人ノ生命尙ホ存スト復タ樓ニ上リ餅
 チ擘キテ之ヲ食シ講談明且ニ達セリ時ニ少者既ニ甦生
 シタリシカハ衆大ニ之ヲ喜ベリ

使徒パワエルハトロアダチ去リ海路ニ就テイタニヤ國海
 濱ノ都ミレトニ赴ケリパワエル人チエヘスニ遣シテ其教
 會ノ長老等チ招キ之ニ謂テ曰ク我始終爾ト偕ニシ且我
 イウデヤ人ノ姦計ニ因テ危難チ受ル數々ナレモ常ニ謙
 讓ト涙涕トチ以テ主ニ事フルハ是レ皆爾等ノ熟知スル
 所也都テ要事爾ニ益スル者ハ皆既ニ爾ニ教テ一モ遺ス
 コナク或ハ衆前ニ於テ之ヲ説キ或ハ諸家ニ於テ之ヲ語
 レリ今我レ聖神ノ指示ニ因テ將ニイエルサリムニ往カ
 シトス彼ニ於テ如何ノ事ニ遭遇スルヤ知ルヘカラス然
 レモ聖神ハ諸都ニ於テ我ニ示シテ桎梏及ビ艱難ノ我チ

待ツアリト言ヘリ然レモ我ハ敢テ我カ生命ヲ以テ貴シトセズ唯欣然トシ主イ、ス、ヨリ受ケタル職務ヲ奉行シ神恩ノ福音ヲ傳ヒシ我レ思ラク今後爾等復タ我面ヲ見ルヲ得サルベシ我レ已ニ神旨ヲ爾等ニ語テ遺ス所ナシ爾等自ラ善ク其ノ身ヲ慎ミ又善ク全群ヲ眷顧スヘシ聖神ハ爾ヲ立テ、監督者ト爲シ主及ヒ神ノ教會ヲ牧セシム是レ乃チ神己ノ血ヲ以テ得タル所ノ教會也我レ知ル我カ去リシ後ニ必兇狼アリ爾ノ中ニ入りテ其群ヲ惜マズ且ツ爾ノ中ヨリ自ラ門徒ヲ從ヘント欲シ出テ、左道ヲ説ク者アルヲ故ニ爾等ハ我ガ三年間日夜涕泣シ爾各

人ヲ教訓セシヲ忘レスノ宜シク自ラ奮發スヘシ兄弟ヤ我今爾ヲ神及ヒ其恩寵ノ道ニ托ス其道ハ必爾ノ成業ヲ助クルヲアラン我レ爾等ニ示スニ爾等自ラ勞苦シ以テ貪欲ノ名ヲ避クヘキ龜鑑ヲ以テス之カ爲メニ我自ラ勞動シ其先例ヲ示セリ且ツ主イ、ス、カ人ニ與フル者ハ福ヲ受ルヲ人ニ受ル者ヨリモ多シト云ヒシヲ忘ル、勿レト言畢リテパウエルハ膝ヲ屈メ一心ニ祈禱ヲ行ヘリ離別ニ臨ンテ衆悲歎ニ堪ヘス皆涕泣シ或ハパウエルヲ抱キ或ハ之ヲ接吻セリ蓋今後其ノ面ヲ見ルヲ得スト言フヲ以テ殊ニ哀慟ヲ加ヘタリ乃チ之ヲ送リテ船ニ登レ

リ
 パワエルハヒニキヤノ海岸ニ着メテイルニ往キアトレマイ
 ドニ於テ遂ニ陞ニ上リ又ケサリヤニ至リ數日間七補祭中
 ノ一人ニシ福音ヲ傳フルヒリツアノ家ニ寓シ其後遂ニイ
 エルサリムニ至レリ
 テイルニ於テ門徒數人聖神ノ告知ニ因テパワエルヲ諫メ
 テ曰クイエエルサリムニ行クハ徒ニ危難ニ逢フノミ也ト
 又一預言者アリアガフト云フイウデヤヨリケサリヤニ
 來リパワエルノ帶ヲ取り自ラ己ノ手足ヲ縛リ謂テ曰ク聖
 神言ヘリ曰クイウデヤ人ハイエルサリムニ於テ此帶ノ主

ナ繫縛スルコト此ノ如クシ異邦人ニ與ヘントスト他人モ
 亦パワエルニ請フテイエエルサリムニ往カザランコト求メ
 タリシカパワエル答テ曰ク爾等何ヲカ爲スヤ何爲シ涕泣
 メ徒ニ我カ心中ヲ摧乱スルヤ我ハ唯囚人トナルヲ甘ス
 ルノミナラズ今將ニイエエルサリムニ於テ主イハススノ
 名ノ爲メニ命ヲ致サントスト百方之ヲ止ムレモ聽カ
 サレハ衆遂ニ己ム曰ク是レ必主ノ旨ナラント
 イエエルサリムノ諸兄弟ハ欣然トシパワエルヲ迎ヘタリパワ
 ルハイヤコフノ家ニ至レハ諸長老尽ク集レリパワエル乃チ
 衆ニ向ヒ細ニ神ノ己ニ藉テ異邦人ノ間ニ行ヒシ事蹟ヲ

語リシニ衆之ヲ聞テ皆神ヲ讚頌シ且ツパワエルニ謂テ曰ク
 兄弟ヤ爾必見ルナランイウデヤ人ノ信者此地ニ在ル者幾
 千人ナルヲ皆法律ニ熱心スル者也彼等爾ノ事ヲ傳聞メ爾
 ハ異邦人ノ間ニアルイウデヤ人ニ教ヘテ兒童ニ割禮ヲ行
 フヲ及ヒ儀式法律ヲ守ルヲ禁シテモイセイニ背カシメ
 タリト云ヘリ爾宜シク我が言ニ從フベシ我儕ノ中ニ祈誓
 ノ者四人アリ爾之ト偕ニ潔淨シ自ラ之ガ爲メニ獻祭ノ
 費用ヲ出スヘシ然ルキハ爾ノ事ノ傳聞ハ皆虛言ニ屬シ且
 衆ハ爾モ亦法律ヲ履行スル者ナルヲ悟ルヘシ而シテ異邦人ノ
 信者ノ如キニ至テハ我儕之ニ書ヲ遺リテ斯ノ如キヲ負

ハシメズメ唯偶像ノ獻祭、血、縊死、及ヒ姦淫等ヲ戒メタリパ
 ワエル其ノ言ニ從ヒシガ亞西亞ノイウデヤ人等ハパワエルノ
 禮拜堂ニアルヲ見テ皆擾動シ之ニ手ヲ置キ叫テ曰クイズラ
 イリ人乎請フ我ヲ助ケヨ抑々此人ハ到ル處ニ己ノ教ヲ説
 キ我カ民ニ反シ法律ニ反シ且ツ此聖所ニ反シ衆人ヲ煽動
 シ又曾テエウリン人ヲ引テ禮拜堂ニ入レテ聖所ヲ汚セリ
 (是ヨリ先キ衆ハエヘスノ人ロビムカパワエルト偕ニ都中ニ
 アルヲ見テパワエル之ヲ引テ禮拜堂ニ入ルト疑ヘリ)是ニ於
 テ全都尽ク動搖シ人民皆集リテパワエルヲ捕ヘ禮拜堂ヨリ
 曳キ出シ將ニ之ヲ殺サントセリ此時營中ノ千夫長兵士ヲ

率并來リパワエルヲ毆ナタルイウデヤ人ノ手ヨリ執リ二鎖
 ナ以テ之ヲ縛シ其ノ何人コノ何事ヲ爲セシヤヲ衆ニ質スニ
 一ノ確乎タル事實ヲ得ルヲ能ハス何トナレハ人民ノ言フ
 所各異ニシ甲ノ言フ所ハ乙ノ言フ所ニ同シカラス丙ノ言
 フ所ハ丁ノ言フ所ニ異ナレバ也是ヲ以テ命シテパワエルヲ
 城營ニ曳カシム入ルニ臨ミパワエル千夫長ニ請フテ人民ニ
 向テ一言セシテ求メシニ千夫長之ヲ許シタリシカバパワ
 ル乃チ階ニ立テ手ヲ搖シ民ニ示シエウレト語テ以テ演説
 セシニ衆皆沈黙メ之ヲ聞ケリパワエル衆ニ向ヒ己ノ事ヲ語
 テ曰ク我ハイウデヤ人ニシガマリイルノ下ニ生長シ始ハ

祖宗ノ法ニ熱心セシ者ニシ大ニハリストスノ道ヲ信奉ス
 ル者ヲ窘逐シ之ヲ死ニ至ラシメタリ我レダマスクニ行カントス
 ル途上ナグレトイ、ス、現出セシヲ見テ大ニ驚動シ天光
 ノ映照ニ因テ視力ヲ失ヒシガダマスクニ至ルニ及デハリス
 トスノ門徒アナニヤト云フ者ニ頼リテ遂ニ其ノ明ヲ復シ
 タリ是ニ於テ始テ自ライ、ス、ノ名ノ傳道者トナルヘキ
 一ヲ悟リ遂ニ洗禮ヲ受ケタリト又之ニ語ルニ改心後始テ
 イエルサリムニ至リ禮拜堂ニ於テ主ノ顯象ヲ見シ一及ビ
 イエルサリムノ住人其ノ証ヲ受ケサルヲ以テ主之ニ命シ
 テ其地ヲ出テシメタル等ノ一ヲ以テセリ又パワエルハ主カ

已レニ語テ往ケヨ我將ニ爾ヲ遠シ異邦ニ遣ハサントスト
 言ヒシヲ述フルヤ否ヤ衆大聲ニ呼テ曰クパワエルヲ地ニ
 亡ホシ之ヲ生存スルヲナカラシメヨト衆衣服ヲ投シ塵
 チ空中ニ揚ケタリ千夫長ハ衆人カバワエルニ向ヒテ喧呼ス
 ルハ何ノ故タルヲ知ラス故ニ其原因ヲ知ランガ爲メニパワ
 ルヲ拷問セシメ革帶ヲ以テ之ヲ繫キ將ニ之ヲ毆タントセ
 シカバパワエル乃チ言テ曰ク我ハローマノ士人也豈ニ裁判
 チ遂ケズ能ク我ヲ毆ツヲ得ンヤト千夫長パワエルカ
 一マ士人也ト云フヲ聞キ大ニ懼ル蓋之ヲ縛セシテ以テ也
 明日ニ及テ千夫長ハ何故ニイウデヤ人斯ノ如クパワエルチ

罪スルヤヲ判明セント欲シ其桎梏ヲ釋キ議會ヲ開キテ尽
 ク會員ヲ招集シパワエルヲ引テ會場ニ出スニパワエルハ會員
 ニ向ヒ言テ曰ク兄弟ヤ我今日ニ至ルマテ實ニ清潔ナル誠
 心ヲ以テ神ノ前ニ在リト此時祭司長アナニヤ侍者ニ命シ
 テ口ヲ撃タシムパワエル之ニ謂テ曰ク聖壁ヤ(外面ノミヲ飾
 ル者ヲ喻ヘテ言フ)神將ニ爾ヲ撃ントス爾ノ此ニ坐スルハ
 法律ニ因リテ我ヲ裁判センガ爲メ也而ルニ今爾ハ法律ニ
 逆フテ我ヲ撃ツヲ命スル手ト侍者パワエルニ言テ曰ク爾
 何ヲ言フヤ爾ハ神ノ祭司長ヲ誹謗スルカトパワエル答テ曰
 ク兄弟ヤ我ハ是ノ人ノ祭司長タルヲ知ラサル也我ハ聖書

ニ民長ヲ誹ル勿レ(出埃及記二二ノ二八)ト録スルアルヲ知
 ルト時ニパウエルハ會負ノ半ハサドケイ人ニノ半ハハリセ
 イ人タルヲ知リ呼テ曰ク兄弟ヤ我ハハリセイ人也又ハリ
 セイ人ノ子也我レ死者ノ復活ヲ望ムニ因テ今審ヲ受クト
 此ノ言ニ因テ議會ノ間ニ爭論起リハリセイ黨ノ學士等言
 テ曰ク我儕ハ此人ニ何等ノ惡事アルヲ見ス若シ聖神或ハ
 神使此人ト言フアテハ則チ我儕ハ神ニ逆フ可カラサル
 也ト然ルニ兩黨ノ爭論益々熾ナリシカ千夫長ハパウエルカ
 衆ニ裂カレシヲ恐レ軍士ニ令メ之ヲ會場ヨリ出シ城營
 ニ入ラシメタリ時ニ夜間神パウエルニ現ハレ之ニ謂テ曰ク

パウエルヤ懼ル勿レ爾イエルサリムニ於テ我が事ヲ証セシ
 如クローマニ於テモ亦之ヲ証スベシト明且ニ及テイウデ
 ヤ人四十餘人誓テ曰クパウエルヲ殺サズンバ決メ飲食セス
 ト乃チ會議員ニ向ヒ己ノ意見ヲ申告シ且ツ之ニ請テ祭司
 長及ヒ長老等ヲノ千夫長ニ請ハシメテパウエルヲ彼等ニ與
 テ更ニ之ヲ糺問センコトヲ求メタリ蓋パウエルノ會場ニ至ル
 チ待テ之ヲ途ニ要殺セント欲シテ也パウエルカ姉妹ノ子此
 謀ヲ聞知メパウエルニ告ケシカハパウエル之ヲノ千夫長ニ報
 セシメタリ是ニ於テ千夫長ハ夜竊ニ步騎兵ヲ以テ堅クパ
 ワエルヲ衛護シ之ヲクサリヤノ執政ヘリクヌノ處ニ送り且書

ナ致ッ曰ク我ローマノ士人チイウデヤ人ヨリ奪ヒシガイ
 ウデヤ人ハ法律ニ關係シタル論議ノ爲メニ之ヲ殺サント
 欲ス我ハ之ヲ桎梏ニ繫キシカ其死刑ニ處スヘキノ罪狀ヲ
 見ス然レモイウデヤ人ハ惡計ヲ以テ將ニ此ノ囚人ヲ害セ
 ントスルヲ以テ爲メニ之ヲケサリヤニ遣シ又彼ノイウデ
 ヤ人ニ論スニ宜シク執政者ノ前ニ於テ之ヲ訟フ可キヲ以
 テセリト
 ヘリクスハ命シテパワエルチイロドノ公廨ニ入レ兵卒ヲ
 之ヲ護衛セシメ以テ訟者ヲ待テリ五日ヲ越テ司祭長ア
 ニヤ諸長老等ト共ニ來リ訟フ代辨者パワエルチ証言ノ曰ク

此人ハ社會ヲ害毒シ諸處ニ於テイウデヤ人ヲ騷擾セシム
 ル者ノ首謀者也好テ禮拜堂ヲ汚ス者也ナソレイ異端黨ノ
 巨魁也トパワエル答テ曰ク我イエルサリムニ在ルヲ僅ニ十
 二日ニ過キザルナリ其ノ彼ニ留マリシ所以ハ崇拜ヲ爲シ
 施濟ヲ行ヒ且ツ人民ニ獻祭ヲ爲サシメンガ爲メ也我未タ
 嘗テ殿上ニ於テ人ト議論セズ又會堂ニ在テ人ニ演說セズ
 或ハ街頭ニ在テ人ト論辨セシヲモナシ其レ此ノ如ク我ハ
 唯一心ニ已ノ父祖ノ神ニ奉事スルノミ然レモ訟者ハ之ヲ
 以テ異端ト爲ス且ツ我ガ之ニ奉事スル所以ハ律法及ヒ預
 言者ノ錄セシ所ノ者ヲ信シ又義人及ヒ不義人ノ死ヨリ復

活スルヲ待(即彼等モ亦其中ニアルヘシ)ツカ爲メ也我ハ唯
 禮拜堂ニ於テ獨己チ潔淨セシノミ敢テ民群ヨ入リシヲナ
 シ亦喧囂セシヲナシトヘリクス之ヲ聞キ他日ヲ待テ當ニ
 判決スヘシト言ヒ命ヲ下メパワエルヲ警護セシム然レモ敢
 テ之ヲ窘蹙スルヲナカラシメタリ數日ヲ越テヘリクス已
 ノ妻即チイウデヤ人ノ女ドルシヲノ請ニ因テハリストス
 ノ教ヲ聽カンガ爲メニパワエルヲ召シタリパワエル説クニ正
 義節制及ヒ後來ノ審判ノ事ヲ以テセシカハヘリクス大ニ
 懼レ之ニ謂テ曰ク今且ク退クヘシ我レ閑ヲ得ハ則復タ爾
 チ召サント後果シテヘリクスハパワエルヲ招キテ數々共ニ

語レリ其意、金ヲ出サシメ以テ釋放セントスルニ在リ然レモ之
 チ釋スモ更ニ得ル所ナキヲ察シ且ツイウデヤ人ヲ欣ハシ
 メント欲シパワエルヲ縛メ己ノ代任者ホルツイベストニ遞送
 シニ歳ノ間パワエルヲ獄ニ繋キタリ
 ベスト至ルニ及ヒテ會議員等パワエルノヲ以テ之ニ訴ヘ
 又議員ノ委托ヲ受ケタル者等皆議會ニ招カレテケサリヤ
 ニ來リパワエルヲ罪スルヲ甚タ重シ然レモ其ノ罪ヲ証定ス
 ルヲ能ハサリキパワエル自ラ辨解シ曰ク我ハ未ダ曾テイウ
 デヤノ法律及ヒ殿堂并ニケサリニ反スル毫末ノ罪ヲ犯サ
 スト然ルニベストハイウデヤ人ヲ欣ハシメント欲シパワ

ルニ謂テ曰ク我イエルサリムニ往テ爾ヲ裁判セシ爾彼ニ
 行クヲ欲セサルカト(蓋イウデヤ人等路上ニパウエルヲ殺サ
 ント欲シ此事ヲ以テヘストニ請ヒシ也)パウエル答テ曰ク我
 今タサリ裁判所ノ前ニ立ツ此ニ在リテ我ヲ裁判ス可シ我
 イウデヤ人ヲ辱シメシヲナキハ爾ノ熟知スル所也若シ我
 不義ニシ死ニ當ルヘキノ罪ヲ犯サバ我豈肯テ死ヲ辞セン
 ヤ若シ然ラズンバ何人ニ論ナク我ヲ彼等ニ與フルノ權有
 ラサル也我ハ唯ケサリノ裁判ヲ請ント是ニ於テヘスト之
 ニ言テ曰ク爾ケサリノ裁判ヲ求メハ宜クケサリヲ叩クヘ
 シト

數日ヲ經テアグリツパ王ハワエリニカト與ニケサリヤニ
 來リテヘストヲ訪ヒ留ルヲ數日ナリシカハヘスト乃チ
 王ニ告クルニパウエルノ事ヲ以テセシニアグリツパハ其
 人ヲ見ントチ求メタリ明日裁判所ニ於テ會議ヲ開キパ
 ワエルヲ召テ其會場ニ出テシメアグリツパ之ニ發言スル
 ヲテ許セシカハパウエル乃チ語テ曰クアグリツパ王ヤ我
 今日爾ノ前ニ於テ辨解スルヲ得ルハ何ノ幸福カ之ニ
 加ヘン何トナレハイウデヤノ風俗及ヒ其論議ノ旨意等
 ハ爾ノ善ク知ル所ナレハ也爾寬メ我言ヲ聽クベシ夫レイ
 ウデヤ人ハ皆我カ幼年ヨリノ事ヲ知り又我カハリセイ

ノ嚴ナル教ヲ奉セシテ知ル然ルニ今日ニ至テ我ハ神ノ
 我カ父祖ニ與ヘシ所ノ約束ヲ望ムテ以テ之カ爲メニ罪
 セラル我カ十二族モ亦皆此輩ヲ見シ事ヲ欲スル也爾等
 ハ神ノ死人ヲ復活セシムルヲ以テ奇怪ノ事ト爲スガ昔
 我レ曾テ自カラ以爲ラクナブレノイハス、ノ名ヲ攻
 ノ嚴酷ニ之ヲ處セサル可ラスト因リテイエスサリムニ於
 テ斯ク之ヲ行ヒ聖者數人ヲ獄ニ繫キ或ハ會堂ニ於テ我
 之ヲ窘逐シ又之ヲメイ、ス、ヲ誹謗セシメ甚ダシキニ
 至テハ其他ノ諸都ニ於テモ亦銳意之ヲ窘逐シタリ其後
 我益々之ヲ窘メント欲シ且祭司長ヨリテ全權ヲ受ケテ

シマスグニ赴クノ途上日中ニ及フ比ヒ我レ天ヨリ光ア
 ルヲ見タリ其光ハ日ヨリモ甚シク我及ヒ同行者ヲ環照
 ス我儕皆地上ニ仆レタリシガエウレ一語ヲ以テ我ニ語
 ル者アルヲ聞ケリ曰クサウルヤサウルヤ爾何ヲ以テ我
 ナ窘逐スルヤ爾強テ鋒ニ向テ行クニ是レ難シト我問テ
 曰ク主ヤ爾ハ誰タルヤト曰ク我ハ爾ノ窘逐スル所ノイ
 ハス、也起ヨ我爾ニ現ハル、所以ノ者ハ蓋爾ヲ爾ガ
 己ニ目撃セシ事及ヒ我將ニ爾ニ示サントスル事ノ証者
 并ニ役者トナラシメンガ爲メ也我爾ヲイウテヤ及ヒ異
 邦ニ遣ハメ其民ノ眼ヲ啓キ且ツ之ヲ黑暗中ヨリ出シテ

光明ニ就カシメシ又其民ヲメサタナノ權下ニ脱シテ神
 ニ歸シ我ヲ信ズルニ頼テ罪惡ノ赦ヲ受ケ以テ聖者ノ後
 ヲ襲^ツカシメントアグリツパ王ヤ我ハ天ノ現示ニ順ハサ
 ルヲ得サル也故ニ始ハ道ヲダ^マス^ク及ビイエ^ルサ^リム
 フ人民ニ説キ次ニイ^ウデ^ヤノ全地及ヒ異邦ニ往テ頻リ
 ニ道ヲ宜ヘタリ蓋之ヲメ改悔メ神ニ歸シ且ツ改悔ヲ証
 スベキノ事ヲ行ハシメ^ンカ爲メ也今コノ爲メニイ^ウデ
 ヤ^ハ禮拜堂ニ於テ我ヲ執ヘ將ニ我ヲ殺サントセリ我
 ハ神ノ佑助ヲ受クル者也故ニ唯預言者及ヒモイ^セイ^カ
 會テ^ハリス^トス^ハ艱難ニ逢ハサルヲ得ス且ツ自ラ先ツ

死ヨリ起テ選民及ヒ異邦人ニ救道ヲ示サ、ルヲ得サル
 也ト言ヒシ事ヲ演ヘシノニ其他決ノ多言セストヘスト
 此言ヲ聞キ言テ曰クパ^ワエ^ルヤ爾ハ狂乱セシニア^ラス^ヤ
 爾博學ニ過クルヲ以テ必ス錯誤セルナラントパ^ワエ^ル之
 ニ答テ曰ク尊憲ナルヘストヤ我決ノ狂スルニ非ス我言
 フ所ノ者皆真正精覈也王ハ必善ク此事ヲ知ラン何トナ
 レバ我レ爾ノ前ニ在テ自由ニ演説セリ王ハ此事ヲ知ラズ
 ト云モ我ハ敢テ之ヲ信セス何トナレハ此事タルヤ屋隅
 ニ生セシニア^ラサ^レハ也ア^グリ^ツパ^王ヤ爾預言者ヲ信
 スル乎我ハ其必信スルヲ知ル也トア^グリ^ツパ^言テ曰ク

爾我ヲ勸メテ幾ントハリステアニシムトパウエル
之ニ答テ曰ク我方サニ神ニ祈リテ爾一人ノミナラズ衆
人ノ今日我言ヲ聽キシ者ヲシテ此桎梏ヲ除クノ外ハ悉ク
皆我カ如クナラシメント其後王ハ執政及ビワエチリカ并ニ
會議員等ト共ニ議シ曰クパウエルハ毫モ死スベク桎梏スヘ
キノ事ヲ爲サズ故ニ彼レ若シケサリノ裁判ヲ請求セス
ンハ則之ヲ釋シ可ナリト

第五 聖パウエルローマニ旅行スル事〇二十七、二十
八章

ヘストハ囚者數人ト與ニパウエルヲ海路ヨリイタリヤニ遣

ハセリ其舟辛フノキアル島ニ達セシカ時己ニ秋分ヲ過ギ
タリシカバパウエル衆ニ言テ曰ク此舟若シ遠行セバ必大危
難ニ逢フベシ唯舟及ビ貨物ヲ損スルノミナラズ船人ノ生
命モ亦危カルベシト然レモ百夫長ハ深ク船長及ビ舵子ノ
言ヲ信シテパウエルノ言ヲ信セザリキ既ニシテ碇船處ヲ易ヘ
ント欲シ舟ヲ海上ニ出セシ時颶風大ニ起リ舟動搖スル
甚シ盡ク貨物及ビ船人ノ諸品ヲ海ニ投シ唯風ニ任セテ海
上ニ飄蕩セリ日星ヲ見ザルコト既ニ數日ニシテ狂風毫モ止マ
ザリシカバ衆皆大ニ驚キ死ヲ期スルノ外他ナク一人トシ
能ク飲食スル者ナシ時ニパウエルハ衆中ニ立テ謂テ曰ク諸

君ヨ先ニ我言ヲ聽テクリトチ拔錨セザレバ今日ノ如キ危
 難ニ遇ハザルヘキ也然レニ諸君宜シク安堵スベシ何トナ
 レバ唯舟ヲ損スルニ過キズ爾ノ中一人モ生命ヲ危ウスル
 者ナカルベシ蓋今日我カ奉事スル所ノ神ノ使、我ニ現ハレ
 テ曰クパワエルヤ恐ル、勿レ爾ハケサリノ前ニ立ツチ得ヘ
 シ且ツ神ハ爾ト共ニスル所ノ船人ヲ以テ皆爾ニ賜フト故
 ニ爾等宜シク安心スベシ我ハ神ヲ信ズ必一島ニ達スル
 ヲ得ント舟子乃チ海底ノ淺深ヲ測テ陸地ニ近ツケルヲ知
 レリ既ニソ明且果ノ陸ニ近ツキケレバパワエル衆ニ勸メテ
 飲食セシメ且ツ謂テ曰ク我等食セザルコト既ニ十有四日也

今宜シク食フベシ是レ爾ノ生命ヲ保護スルカ爲メ也然シ
 テ爾ノ中一人トシ頭髮ノ一タモ失フコトナカルベシト言畢
 リテパワエル餅ヲ取り衆前ニ於テ神ニ感謝シ擘テ之ヲ食ヒ
 衆モ亦皆始テ安心シ餅ヲ食セリ時ニ忽チ一ノ海岸ヲ認メ
 ケレハ之ニ達セント欲シ誤テ洲ニ擱シ船首ハ砂ニ膠シ船
 尾ハ激浪ノ爲メニ破ラレシカバ軍士等囚人ノ此隙ニ乘シ
 テ脱走センコトヲ恐レテ之ヲ殺サント謀リシニ百夫長ハパ
 ワエルヲ救ハント欲シ軍士ヲ止メ且ツ衆ニ命シ各宜キニ從
 テ其身ヲ免レシム因テ或ハ泗シ或ハ船板ニ乘シ皆岸ニ達
 スルコトヲ得タリ

衆、岸ニ登リテ始テメリト(今ノマリタ)島ナルヲ知レリ島人
 之ヲ遇スルヲ甚タ厚シ時ニ雨降り寒キヲ以テ衆ハ火ヲ燎
 テ之ヲ煖ム適々パウエル薪一束ヲ取り之ヲ火中ニ置キシニ
 火熱シ中ヨリ蝮蛇出テパウエルノ手ヲ繞レリ島人ハ蛇カバ
 ワエルノ手ニ懸ルヲ見テ相語テ曰ク此人ハ蓋人ヲ殺セシ者
 ナラン設ヒ海上ノ危難ヲ免ル、モ神ハ必其生ヲ許サヤラ
 ン且ツ以爲ラクパウエルハ或ハ手腫レ或ハ直ニ死スルナラ
 ント然ルニパウエルハ蛇ヲ取りテ之ヲ火中ニ投シ毫モ其害
 ナ受ケザリシカバ衆皆意ヲ轉シテ謂テ曰ク彼ハ神也ト島
 長プアリオハパウエル及ビ其同行者ヲ迎ヘ三日間厚ク之ヲ

饗應セリプアリオノ父瘡病ヲ患ヒテ腹痛ニ苦シム故パウ
 ル其家ニ至リテ祈禱ヲ行ヒ手ヲ病者ニ接シテ之ヲ癒セシ
 カハ其後他ノ病者數人パウエルニ就テ治ヲ乞ヒシ者皆治癒
 ナ得パウエルノ去ルニ臨ム時衆ハ之ニ其需物ヲ贈レリ
 パウエルハ他舟ニ乘リ三月ヲ經テイタリヤニ至リ速ニロー
 マニ達セシカ此ニ既ニ信者アリテパウエルヲ迎ヘタリ(蓋イ
 エルサリムニ於テ聖神ノ諸使徒ニ降臨セシメ、ノ証者タル
 ローマ人カ既ニ信者ノ基ヲ開キシナラン)パウエルハ軍士ト
 共ニ民家ニ住スル許可ヲ得其軍士ナル者ハ即チパウエルノ
 警護卒也パウエルハ眞實ノ語ヲ以テイウデヤ人ニ向ヒ所謂

ル公會ノ日ニ於テ神國ノ教ヲ述ヘ且ツモイセイノ法律及
 ビ預言書ヲ引テイ、ス、ハ約束セラレタル所ノメシヤナ
 ルヲチ証セリ衆或ハ之ヲ信シ或ハ之ヲ信セズパウエル復之
 ニ謂テ曰ク聖神ハ預言者イサイヤヲ以テ我カ父祖ニ言ハ
 シメテ曰ク往テ此人民ニ語ケヨ耳聽テ聽ナラズ目視テ明
 ナラズ(イサイヤノ書六ノ九)故ニ神ヨリ救道ヲ異邦人ニ賜
 ハルヲハ是レ爾等ノ知ル所ナリトイウテヤ人等之ヲ聞キ
 退イテ互ニ爭論セリパウエル此ニ客居スルヲ二周年、來訪者
 アレバ必侃々トノ之ニイ、ス、ハリストスノ事ヲ宣ヘタ
 リ故ニテロンノ宮中及ヒ官吏中往々信者トナリシ者アリ

パウエルヲ助ケテ傳道ニ從事セシ者ハマルク、ルカ、テモフエ
 イ、エパフラス等也伊等ヲ以テ第一ノ傳道者ト爲シ難シ
 ト雖モ稱シ其鄉國ナルコロス及ヒ他ノ地方ノハリスト
 ス教ノ傳播者ト謂テ可ナリ

第六 聖パウエル第六ノ旅行ヲ爲スヲ及ヒローマニ
 於テ致命スル事(テロンノ窘逐)

使徒パウエルハ桎梏ヲ釋サレテヨリハリストス教ヲ鞏固シ
 且ツ之ヲ擴布センガ爲メニ又旅行ヲ爲シクリト島ニ至リ
 己ノ同勞者テトヲ以テ此地ノ主教ト爲シ去リテ亞西亞教
 會ヲ巡リエヘスニ至リ又其ノ同行同勞者テモフエイヲ以テ

主教ト爲セリ

時ニ子センハローマニ於テ窘逐ヲ始メタリ(第六十四年)チ
ロンハトロイ都ノ殷盛ナルヲ見ローマチノ之ニ齊シカラ
シメント欲シ且ツ己ノ所思ノ如クニローマ城ヲ改造セン
ガ爲メニ自ラ其都ヲ燒キ而シ其罪ヲ火ヲ以テ全世界ヲ滅
サント言テ衆ニ知ラレタル者ニ歸セリ又巳ノ殘虐ナル望
チ遂ケンガ爲メ命シテハリステアニンチ獸皮ニ包ミ獅窟
ニ投シテ之ヲ齧噬セシメ或ハ十字架ニ磔シ或ハ松液ヲ塗
リテ之ヲ園中ニ肆シ夜ニ至レハ點火ノ園中ヲ照サシメタ
リ此ノ如クハリステアニンチ窘逐セシ殘忍ナルローマ國

帝ハ殊ニハリステス福音ノ爲メニ勞動困苦セシ所ノ使
徒ヲメ鴻愛ヲ懷カシメタルコトハ固ヨリ論ヲ俟タカル也パ
ウエル再ビローマニ至ルニ及テ子ロン遂ニ執テ之ヲ刃殺セ
リ是ローマ士人ノ常刑也(第六十七年六月二十九日)

第六分類

トス教ノ傳道者ノ功績

第一 シモンペートルノ功績

パウエルト同時ニ使徒ペートルモ亦致命セリイロドアグリ
ツパハゼウエデーノ子イヤコフヲ殺セシ後ペートルヲ執ヘ
テ之ヲ獄ニ繋ギシニペートルハ天使ノ助ニ依テ其獄ヲ脱

シイエルサリムヲ離レテ遂ニパレステナノ國境ヲ出デタ
 リパレステナハ當時イロドアグリツパノ領地タリ時ニペ
 ートルハパレステナ境外ニ於テ割禮ヲ受ケタル使徒ノ如
 クイウデヤ人ニ傳道シ六年ヲ越テイエルサリムニ來リテ
 使徒ノ會議ニ出デタリ其後ペートルハアンテオヒヤニ於
 テパウエルト相會シポントガラテヤカパドキヤ亞西亞及ヒ
 ワエヒニヤ等ニ住スルイウデヤ人ノ間ニハリストスノ道ヲ
 擴布シ子ロン在位ノ末年ニ當テペートル復タパウエルト偕
 ニローマニ於テ傳道ニ尽力セリ
 ペートルハ此異邦ノ一都ニ於テ巫者シモント爭論セリシ

モンハ真正ノ教ヲ棄テ復タ巫祝ニ歸シタル者也四方ヲ周
 遊シローマニ至リ到ル處巫術ヲ以テ輕信者ヲ驚動シ自ラ
 稱メ天ヨリ降臨セシ神也ト云ヘリ使徒ペートル嘗テ貴顯
 ナル寡婦ノ子ヲ復活シ大ニ此ノ巫者ヲ辱シメタリ蓋此ノ
 子ハ巫者ノ徒カ之ヲ活カント力メシ者也後コノ巫者ハ
 衆前ニテ昇天セントセシニペートルカ祈禱ヲ行ヒシニ因
 テ遂ニ半空ヨリ地ニ墜落メ死シタリ
 ペートルハ子ロンノ愛セシ巫者シモンヲ斃シ且ツ其ノ寵
 スル所ノ貴女二人ヲハリストス教及ビ貞潔ノ生命ニ歸教
 セシニ因テ遂ニカサリノ怒ヲ招キタリケサリハ數々ペー

トルヲ索メテ之ヲ死ニ處セント欲セシカバ諸信者ハ衆人ノ幸ノ爲メニペートルニ都ヲ去ランヲ勸メケレハペートル乃チ夜竊ニ都門ヲ出テシニ救世主ハリストスノ都ニ往クヲ見タリペートル叩拜シ問テ曰ク主ヤ爾ハ何ノ處ニ往クヤ主曰ク將ニローマニ往テ再ビ十字架ニ懸ラントスト言畢テ復タ其影ヲ見ズペートルハ此現示ヲ悟リ以爲ラク我ガローマニ於テ艱苦ヲ受ルハ是レ主ハリストスノ喜ベル所也ト是ニ於テ又ローマニ歸リテ直ニ囚ヘラレタリ法官ハ之ヲ十字架上ニ磔セント決シタリシカペートルハ請テ逆磔ヲ受タリ蓋主ト同一ナル常磔刑ヲ受ルハ自ラ之

ニ當ラズト爲ステ以テ也

第二 アンドロニメルワズワノ功績

シモンペートルノ兄弟アンドロニハ衆ニ先シテ主ニ招カレ使徒トナリシ者也イ、ス、ハリストス昇天ノ後亞西亞及ビ歐羅巴ノ黒海沿岸地方ニ傳道シシノバニ於テ大ニ艱難ヲ受タリ其後小亞西亞ヨリ歐羅巴ニ航シワイサンヤノアラキヤ都ニ之キテハリストスノ道ヲ傳ヒ教會ヲ建テスタヒイチ以テ主教ト爲セリ又北方ニ赴キ多腦河外ノスキヒヤ地方ニ至リテ福音ヲ傳ヘタリ露西亞教會ノ傳フル所ニ據レバアンドレイハ多腦河畔今ノキイフ都ノ在ル所

山ニ上リ夜此ニ泊シ其門徒ニ向ヒ言テ曰ク爾等此山ヲ見
 ザルカ神ノ恩寵甚ダ盛ナリ此地後日必大部ト爲リ眞道ノ
 遺跡ヲ存スルコト最モ多カルベシ何ントナレバ神ハ洗禮ヲ
 以テ遍ク此地ヲ照耀セント欲スレハ也トアンドレイ山頂
 ニ登リテ之ニ福ヲ降シ十字架ヲ建タリ其ノ後アンドレイ
 ハエビール及ヒアハイヤニ傳道シアハイヤノバトラフ都
 ニ於テ都ヲノ尽クハリストスニ歸セシメシカバ総督イゾ
 アト怒テ之ヲ十字架ニ磔セシメタリアンドレイハ十字架
 上ニ在テ二日ノ間民ニ堅ク教ヲ守ラントテ勸メタリ時ニ
 オゲアトハ民ノ請ニ因テ之ヲ架上ヨリ下サント欲セシガ

忽チ天光甚ダシク人眼之ニ當ルヘカラスノアンドレイチ
 環照スルコト殆ンド一時半ナリシガアンドレイハ遂ニ其光
 ノ消滅ト共ニ此世ヲ逝レリ(第七十年十一月三十日ナリ)

第三 神學者イチアンノ功績(ドミチアンノ寔遂)

イチアンハハリストスノ篤愛門徒ニシテ能ク神道ノ妙理ヲ
 悟リ其説ヲ所高尙ナルニ因テ神學者ト稱セラル聖母マリ
 ヤカ常ニ其家ニ住セシニ因テイチアンハ聖母ノ未タ昇天
 セサル前ハイエルサリムヲ去ルモサマリヤ外ニハ出ザリ
 シカ聖母ノ昇天後ハ小亞西亞ニ赴キエヘススミルナベルガ
 ムヒアテルサルデスヒラデルヒヤ及ヒラチデキヤ等ノ教

會ヲ治ソバワルノ同勞者テモフエイカ死後エヘスヲ以テ第一ノ居處トナセリ使徒等ハ既ニ血ヲ以テイ、ス、ハリストスノ証ヲ印セシガ唯イチャアン獨生存セリ神ノイチャアンヲ保護生存セシメタル所以ハドミチアソノ慘酷ナル窘逐ノ時ニ於テ之ヲ確平タル証明者タラシメンガ爲メノ深慮也(九十五年)

ドミチアソハハリステアニンヲ疑ヒ漸次ニ窘逐ヲ始メタリ蓋以爲ラクハリステアニンハ或ハ非謀ヲ企テダワイードノ後裔ハリストス族中ノ一人ヲ舉テ王權ヲ領セシメント欲スルカ然ラスソハハリストスカ速カニ來リテ地ノ王國

ヲ司トルヲ望ムナラント是ニ於テドミチアソハ先ツ之ヲ試ミント欲ソハリステアニンニ命スルニ其己ヲ稱ソ主及ヒ神ト爲サンヲ以セシガハリステアソノハ之ヲ肯セカリシカバ其疑ヒ愈々深ク遂ニ決然窘逐ヲ始メタリ甚シキニ至テハ遂ニ己ノ從弟ナルフアビイクリメント及ヒ其妻即己ノ親戚ナルフワイヤドミテウラノ二人ヲ殺シタリ蓋此人ハハリストス教ヲ信シテ異教神ヲ尊奉セサルヲ以テ也此窘逐ハローマヨリ始マリテ小亞西亞ニ及ヒベルガムニ於テハ主教アンテーパーナル者異教人ノ爲メニデアナノ堂ニ誘ハレ爛熱シタル銅牛ノ中ニ投セラレテ遂ニ死セリ亞

西亞ノ總督ハイチアンチ械ニ繫テエヘスヨリローマニ遣
 シケサリノ裁判廳ニ至ラシメ之ヲ毒殺セント欲セシカレ
 其毒藥毫モ功驗ナキ故ニ之ヲ熱油ノ釜中ニ投セシヨイチ
 アン復タ毫モ其害ヲ受ケスノ釜中ヨリ出タリシカバドミ
 チアン遂ニ命シテ之ヲエゲイ海中ノスポラド群島ノ一ナ
 ルバトモス島ニ竄セシメタリ此ノトキイチアンハ世界滅
 尽ニ至ルマテノハリストス教會ノ運命ノ事ニ付キ奇異ノ
 啓示ヲ得タリ其後ドミチアン死メテルヲ帝位ニ即クニ及
 テイチアンハ遠謫ヲ赦サレテ復タエヘスニ歸レリ(九十六
 年

イチアン既ニ謫處ヨリ歸リ其老耄ヲ願ミ大或ハ近傍ノ地
 ニ至リテ教會ノ順序ヲ立テ或ハ主教及ヒ其他ノ聖役者ヲ
 定メ或ハ新ニ教會ヲ建タリ一日イチアンハエヘス近傍ノ
 一都ニ至リテ聽講者中ニ一少者ヲ認メタリ其人容貌美ニ
 メ且ツ威アリイチアン講義ヲ畢ハリ其人ヲ主教ニ示シテ
 曰ク教會及ヒハリストスノ証者ノ前ニ於テ此人ヲ爾ニ托
 スト主教乃チ之ヲ己ノ家ニ置キ孜々トシテ常ニ之ヲ教導シ
 遂ニ聖洗ヲ授ケタリ其後放任メ親ラ之ヲ監督セサリシカ
 ハ少者遂ニ放縱粗暴ノ徒ト親交セリ彼徒ハ少者ヲ誑誘シ
 之ヲメ般樂ニ耽リ夜盜ヲ爲シ遂ニ大惡計ヲ作サシムルニ

至レリ少者ハ素ヨリ磊落發達ノ人ナレハ其行フ所モ亦衆徒ニ秀テ且ツ其聖洗ヲ領シ以テ救贖ヲ得ルヲ恃ミ益々殘虐ヲ行ヒ暴惡ヲ爲シ遂ニ大ニ同年輩ヲ服從メ一ノ殘暴ナル賊黨ヲ作セリ其後數月ヲ經テイチャアンハ事ニ因テ又其都ニ至リ尽ク要事ヲ終ヘ主教ニ謂テ曰ク先ニ我及ヒ救世主カ爾ノ司トル教會ノ前ニ於テ爾ニ托セシ所ノ者ヲ我儕ニ與ヘヨト主教初メ之ヲ誤解メ意ラク是レ誰カ我ヲ譏メ使徒ノ手ヨリ受ケスノ竊カニ金銀ヲ私セリトナセシナラント因テ大ニ驚動セシガイチャアン曰ク我ハ少者ノ事即チ我兄弟ノ心如何ヲ知ラント欲スル也ト其時主教大ニ痛嘆

涕泣メ謂テ曰ク彼ハ既ニ死セリトイチャアン驚テ曰ク彼レ果シテ何ノ病ヲ以テ死セリヤ答テ曰ク神前ニ死セシ也何トナレハ其暴惡放肆ノ徒トナルノミナラス遂ニ大盜トナリ今ハ己ニ教會ヲ去リテ己ノ黨類ト共ニ山中ニ在リトイチャアン益々驚キ自ラ其衣ヲ裂キ號泣叩頭シ叫テ曰ク我既ニ我兄弟ノ心ニ善長ナル守護ヲ置ケリ我ニ騎馬ヲ與ヘヨ誰カ能ク我ヲ先導スヘキヤト直ニ出テ山中ニ至リシニ邏盜ノ爲メニ執ヘラレタリシカイチャアンハ之ニ抗抵セスノ謂テ曰ク我ノ此ニ來ルハ爾ヲメ我ヲ導テ爾ノ首長ノ處ニ至ラシメンガ爲メ也ト時ニ邏盜ハ銃器ヲ持シ首長ノ出ル

テ待チタリシニ賊長ハイチアンヲ見テ大ニ耻チ遁レ去レ
 リ其時イチアンハ極老ナル身ヲモ顧ミスカテ極メテ其跡
 ヲ追ヒ叫テ曰ク何爲ソ爾ハ我ヲ遁レ去ルヤ我カ子ヤ何爲
 ソ已ノ父ヲ去ルヤ銃器ヲ有セサル老人ヲ畏怖スルヤ我カ
 子ヤ我ヲ恐ル勿レ我レ爾ヲ救フノ道アリ我自ラ爾ノ爲メ
 ニハリストスニ對ヘントス主我儕ノ爲メニ死セシ如ク我
 亦爾ノ爲メニハ死ヲ辞セサル也爾宜シク止リ且ツハリス
 トスカ我ヲ遣ハセシヲ信スヘシト少者之ヲ聽テ乃チ止マ
 リ銃器ヲ棄テ戰慄メ大ニ涕泣セリイチアン之ニ近ツキジ
 ガハ少者之ヲ抱テ益々涕泣セリイチアン誓テ之ニ謂テ曰

ク救世主ハ爾ヲ赦スト乃チ其前ニ膝ヲ屈シ其手ニ吻接シ
 之ヲ諭シ之ヲ戒メテ復タ教會ニ歸セシメ此ニ於テ爲メニ
 祈禱ヲ行ヒ共ニ永禁食ヲ爲シ懇諭鎮靜メ其良心ヲ改メ主ト
 和睦セシメテ後去レリ此ノ如クノイチアンハ眞實ノ悔改
 及ヒ精神歸正ノ重要ナル實狀ヲ開示セリイチアンハトシ
 ヤンノ第三年年九十四(一〇〇年ノ九月二十六日)ニ苦病ナ
 ク此塵世ヲ逝レリ古傳ニ據レハイチアンハエヘスニ於テ
 己ノ門徒ヲメ生ナカラ己ヲ地中ニ埋メシメ義母童貞女マ
 リヤト同ク肉体ト共ニ昇天セリトナス此傳ヤ信ヲ置クニ
 足ラン何トナレハイチアンノ不朽体ハ何ノ處ニ索ムト雖

凡之ヲ得ル能ハサレ也

第四 アルフェイノ子イヤコフノ功績

ゼラエデインノ子イヤコフト別タンガ爲メニアルフェイ一名ク
 ロバ或ハマリヤト稱スル者ノ子イヤコフヲ稱シ小イヤコ
 フト云ト又主ノ義父イテシフノ甥タルヲ以テ主ノ兄弟ト
 稱セリ使徒パウルハイヤコフヲ証シ曰ク彼ハ教會ノ柱石
 タルコトペイトル及ヒイナアンニ異ナラスト遺傳ニ據レハ
 イハスハハリストス自ライヤコフヲ以テイエルサリム教
 會ノ長カラシメタル故ニイヤコフハ常ニイエルサリムニ
 在留セリ抑此ノイヤコフハ操行甚タ嚴肅ニ少時ヨリ常

ニ蒸餅一品ヲ以テ食ト爲シ酒ヲ飲マス又入浴セス且ツ履
 ヲ穿タス常ニ膝ヲ屈シ祈禱ヲ行ヒシ故ニ其膝皮ノ厚キト
 殆ト駱駝ノ如シ其品行方正ナルヲ以テ民間之ヲ稱シ義人
 ト爲シ大ニ之ヲ尊敬セリ故ニ其外ニ出ルコトアレハ人民皆
 競ヒ走リテ之ニ就キ其衣服ニ觸ル、ヲ以テ幸福トナセリ
 ト
 イヤコフノ傳道ニ因テイハス、ハリストスヲ信スル者日
 一日ヨリ多カリケレハアンナノ子司祭長小アンナナル者
 ヘスト死シ新任者アウベンノ未タ到ラサルニ乘シテ會議
 シ學士ハリセイ黨等ヲ禮拜堂ニ集メイヤコフヲ脅カシ之

セシハ所謂亞刺比亞也其後アルノニヤニ來リアウパノボ
 リ都(今ノ裏海ニアルダケスタン都ナリ)ニ於テ生キナカラ
 体ノ皮ヲ剝カレテ死セリ
 ホマハメソポタミヤ、ミデヤ、バルトヤ、ペルシヤ及ヒエヒオ
 ヒヤノ人民ニハリストスノ道ヲ傳ヒ遂ニ印度ニ至リメソ
 アプル都ニ於テアラフマン人ノ爲メニ槍殺セラレタリ
 マトフェイハ稅吏ヨリ出テハリストスノ使徒トナリシ者也
 イ、ス、ハリストス昇天後數年ノ間パレステナニ於テ傳
 道シ後東邦ニ赴キエヒオビヤ(即今ノマビヤ及ヒアビシニ
 ヤヲ云フ)ミデヤ、バルヒヤ、亞刺比亞及ヒ亞西亞地方ニ來リ

一度ハエビオビヤノナツタバル都ニ於テ人ノ爲メニ纒セ
 ラレ一度ハ亞刺比亞ノベシヘル都ニ於テ又纒セラレテ大
 ニ困苦セリ
 シモンハシロト派即國教及ヒ自由党ノ熱心者ニ人成
 ハ之ヲ呼テカナニトト稱セリ蓋ガリレヤノカナ都ノ住人
 ナレハ也グレチヤ教會ノ遺傳ニ據レハシモンノ婚禮ノ時
 主自ラ其家ニ臨テ水ヲ化メ酒トナセリト云ヘリシモンハ
 ハリストスノ教ヲエキペト、キレン、ソワヤ、ヌミテヤマウリタ
 ニヤ等ノ地ニ傳ヒテ亞弗利加國ヲ教化セリ一書ニ據レハ
 シモンハブリタニヤニ至レリト云フ泰西諸國ノ記者ノ言

ニ依ルニシモンハペルシヤノスニラ都ニ於テ十字架ニ磔
 セラレテ死セリト
 イウダハ一名レウヰット稱シ小イヤコフ即アルフェイノ兄弟
 也他ノ諸使徒ニ同シク福音ヲパレステナニ傳ヒシカハ此
 地ヨリ神道播布ノイドメヤ、メソポタミヤ、亞刺比亞、シリヤ、
 アルメニヤ等ニ及ヘリアルメニヤ人等之ヲ尊敬ソ巳ノ使
 徒トナセリ然レモ遂ニアララツト近傍ノ地ニ於テ十字架
 ニ懸ケラレテ射殺セラレタリ
 マトヒオハ七十徒ノ一人ニシテ後圖ニ當リテ十二徒ノ列ニ
 加ヘラレタル者也一書ニ據レハ彼ハエヒオヒヤニテ致命

セリト云然レモグレチヤ人ノ遺傳ニ據レハマトヒイハカ
 ツパドキヤ及ヒ裏海ノ沿岸地方ニ傳道シコウヒド都ニ於
 テ苦艱ヲ受ケタリト云フ

第六 七十徒ノ一人ハツデーノ功績

ハツデーハ七十徒ノ一人ニシテエデスニ使ソ其封君アウガ
 リニ傳道セシチ以テ名アリシ者也アウガリハ不治ノ病ニ
 罹リ全体疲勞シ骨部瘴癘毒ニ當リ内部ヨリ癩ヲ發シ大ニ
 艱苦セシガイ、ス、ハリストスノ奇蹟ヲ聞キ書チアナコ
 ヤト云フ者ニ托メイウデヤニ往カシメ主ニ來リテ巳ノ病
 チ治センイチ請ヒ求メタリ然レモ強テ主ノ親ヲ來ルチ望

ムニハ非サル也而シテ其使者ハ固ヨリ畫工ナレハ之ニ託シ
 イ、ス、ハリストスノ容顔ヲ描寫シ歸ラシム蓋止ヲ得サ
 ルニ於テハ主ノ肖像ヲ見以テ其痛苦ヲ慰藉センガ爲メ也
 使者イエルサリムニ於テ主ヲ索メ其教ヲ聽カント群集中
 ニ於テイ、ス、ハリストスヲ認メタリ然レニ多人雜沓シ
 之ニ近ツクコトヲ得サリシカハ乃チ石ニ倚リテ主ノ面ヲ視
 テ之ヲ寫サントセリ然ルニ主ノ面顔屢々變易シ之ヲ描寫
 スルコト能ハザリキ其時主自ラ使者ノ名ヲ呼ヒアウガリノ
 請求ニ因テ之ニ左ノ答詞ヲ與ヘテ曰ク我ハ我ヲ遣ハセシ
 者ノ事ヲ行ヒ而シテ我ヲ遣ハセシ父ノ處ニ歸ルヲ要ス然ル

キハ爾ニ我門徒ノ一人ヲ遣シ必爾ノ病ヲ醫シ爾及ヒ爾ノ
 近親者ニ永久ノ生命ヲ賜ハント言畢リ命シテ水ヲ携ヒ來
 ラシメテ面ヲ洗ヒ手巾ヲ以テ之ヲ拭ヒシカハ奇ナル哉神
 面ノ像其手巾ニ印シ主乃チ之ヲアナニヤニ賜ヘリアウガ
 リハ人手ノ造爲ニアラサル所ノ神顔ノ像ヲ得テ欣然トシ
 之ニ吻接シ之ニ叩拜セシカハ其病忽チ平治ヲ得唯面部ニ
 僅ニ癩病ノ痕ヲ遺セシノミ
 主昇天ノ後ハツブトハ其命ニ因テエデスニ來リアウガリ
 ニハリストスノ道ヲ傳ヒテ聖洗ヲ授ケタリシカハ其時始
 テ面部ノ瘡痕尽ク消脱シ心体共ニ強壯トナレリ封君聖洗

ヲ受タルニ因テ其領民ノ洗禮ヲ受クル者亦衆シハツデー
ハエデステ去テメソボタミヤ及ヒ全シリヤヲ經歷傳道シ
ヒニキヤノウイリト都(今ノペールト)ニ於テ遂ニ死セリ

第七 福音者マルク及ヒルカノ功績(神母ノ聖像)

マルクヲ稱ノ福音者ト曰フハ唯ハリストスノ道ヲ傳フル
トキ使徒パウエル及ヒペートルノ同勞者タルヲ以テノ故ノ
ミニ非ス乃イ、ス、ハリストスノ福音經ヲ編著シタル
ニ因テ也衆皆之ヲ目メイチアンマルクト稱シ大ニ之ヲ尊
敬セリ其母マリヤハイエルサリムニ於テ家宅ヲ有セシガ
時ニ或ハ之ヲ以テ諸使徒ノ祈禱集會處ト爲セリマルクハ

始メパウエル及ヒワルナワト同行セシガ久シカラスノ其叔
父ワルナワニ從テ郷里キプル島ニ返テ傳教セリ其後ロー
マニ至リテ更ニ使徒ペートルニ隨從シ其教ヲ聽キテ之ヲ
衆人ニ傳ヒシカハ古ハマルクヲ稱ノペートルノ門徒及ヒ
講說者ト云ヘリローマニ於テ又使徒パウエルノ同勞者トナ
リテ道ヲ傳ヒ且ツパウエルノ桎梏ニ繫カレシ時其慰藉者タ
リ其後ローマヨリエキペトニ遣ハサレテ聖教ノ種子ヲア
レキサンドリヤニ播布シ且ツ著名ナルアレクサンドリヤ
ノ啓蒙學校ヲ開設シタリシガ此ニ於テ彼レ大ニ辛酸ヲ嘗
メタリ遺傳ニ據レハ異教人等集リテマルクヲ引テ突兀タ

ル巖上ヲ歩セシメ而シテ後獄ニ投シタリシニ主之ニ現ハレ
テ平和ヲ賜ヒ且ツ之ヲ天國ニ招キタリ明日ニ及テ異教人
復タ之ヲ巖上ニ旋廻セシカハマルクハ遂ニ此世ヲ逝レリ
(六十八年四月二十五日ナリ)

福音者ルカハイ、ス、ハリストス七十徒ノ一人ニシテ
テオヒヤニ生レ最モ學藝ニ長シテ書技醫術ヲ能シセリ數年
ノ間使徒パウエルト同行シパウエルノ致命セシ後ハイタリヤ、
ダウマテヤ、マケドニヤグレチヤ及ヒアリピ山外ノガリレ
ヤ等ニ於テ道ヲ傳ヒタリシガドミチアソ窘逐ノ(降生九十
五年)ニ當テアハノヤニ於テ橄欖樹上ニ懸ラレテ死セリ遺

傳ニ據レハルカ初メ聖母手ニ永生ノ嬰兒ヲ抱キシ像ヲ畫
テ之ヲ聖母ニ上リシニ聖母之ヲ見テ己ヲ詠シタル賛歌ノ
預言ヲ憶ヒ起セリ其歌ニ曰ク今後萬民我ヲ幸福トナスト
又自ラ之ニ加詞シ曰ク我及ヒ我ヨリ生レシ者ノ恩寵ハ永
ク此聖像ト共ニ存スヘシト果シ此恩寵ハ病者ヲ愈治スル
ノ奇蹟及ヒ其他ノ慈善ヲ以テ世ニ顯ハレタリ
人多ク思フ女帝エウドキヤハイエルサリムニテ此聖像ヲ
得テブツハニヤニ賜ヒシニ彼ハ之ヲウラベルンノ禮拜堂
ニ納メタリト後世ノ傳ニ據レハルカハ此外ニ聖母ノ像ニ
枚ヲ畫キ且ツ使徒パウエル及ヒペートルノ像ヲ畫キタリト

云フ

第二編 ハリストス新約教會ノ聖書

イ、ス、ハリストスノ使徒及ヒ其他感神ノ傳道者等ノ教
 誨セシ者ハ皆聖傳機密奉事ノ儀式及ヒハリストス教會ノ
 規律等ニ之ヲ保存スレモ亦神道ノ眞理ヲ後世ニ確傳セン
 カ爲ニ諸使徒及ヒ其親シキ同勞者中ニ神ノ傳ヒタル福音
 ノ理ヲ書ニ著シ之ヲ後世ニ遺ス者アリ蓋聖神ノ指示ニ從
 ヒシ者ニシテ聖神ハ之ニ示スニ言語ヲ以テセリ即神ニ感シ
 テハリストス新約教會ノ聖書ヲ著ハセシ者八人アリマ
 ト
 フェイ、マルク、ルカ、イヤコブ、パウエル、ペートル、イウダ、イサア

ニシテ其書二十八卷アリ

第一 マトフェイノ福音經

先ニマトフェイハパレステナニ傳道セシ時イウデヤ人ノ信
 徒之ニ請フテ其說ク所即イ、ス、ハリストスノ地ニ降誕
 セシトト其聖道、奇蹟、苦難、刑死及ヒ復活等ノ事ヲ書ニ記サ
 シトテ求メタリ故ニ使徒マトフェイハ主昇天ノ後八年ヲ越
 エテ東方ニ赴クニ先チ主ノ福音ヲ書セルニエウレイ語即
 當時普通ノシロハウデー一名アラメー語ヲ以テセリマ
 ト
 フェイハ先キニパレステナノイウデヤ人等ニナソレノイ
 ハス、ハ約束セラレタルメシヤニシテ舊約ノ預言ハ彼

ニ於テ符應シタルヲ説明セント欲スレハ福音經ヲ書スル
 ニダウ、ド及ヒアウラアムノ子メシヤノ系統ヨリ始メ而
 シ預言ニ據テ悉クイ、ス、ハリストス地上ノ生活言行及
 ヒ其景狀等ヲ述タリ此ノ第一福音經ハ則チ使徒最モ之ヲ
 貴重セリ第二世紀ノ末ニパシテナル者アリアレキサ
 ドリヤ學校ノ督長タリ曾テ東邦ニ赴テエウレ、語ヲ以テ
 書シタルマトフェイノ福音經ヲ得タリ蓋使徒ワルナワノ遺
 物ニ係レリイエルサリム教會ノ第一督長アルヘイノ子イ
 ヤコフハ始テ此書ヲグ、レ、チヤ語ニ翻譯セリ

第二 マルクノ福音經

第二ノ福音經ハロー、マニ於テ之ヲ著スセリ曩ニイウデヤ
 人ハケサリヤノ都ニ住スルヲ能ハザリシガカラフデイ帝
 ノ死セシ後其禁稍弛ベリ此時使徒ペ、ト、ル、ロ、マニ到リ
 シニマルク亦來リテペ、ト、ルニ隨從セリ向キニペ、ト、ル
 ハイエルサリムノ其母ノ處ニ於テ之ニ會セシヨリマルク
 ハ始終ペ、ト、ルノ傳道ニ隨從シ其傍チ離レス且ツ常ニ衆
 人ノ爲メニペ、ト、ルノ言ヲ翻復説明シタリシカハロー、マノ
 信徒等ハペ、ト、ルノ傳ヘタル福音チ書ノ之ヲ世ニ遺サン
 ヲチ請求シタリマルク乃チ聖神ノ助ニ因テイ、ス、ハ、ハリ
 ストスノ事業ノ年月ヲ記シ且ツイ、ス、ハ、萬物ノ主宰全

世界ノ至尊上帝ナルヲ述ヘリ使徒ペートルハ彼ノ聖
神ノ啓示ニ因テ著述シタル福音經ノヲ聞知シ其ノ錄ス
ル所ハ皆眞理ナルヲ証明シ此書ヲ諸教會ニ頒布ノ公用ニ
供セシメタリ

第三 福音者ルカノ著シタル福音經及ヒ聖使徒行
傳

時ニイ、ス、ハリストスノ生涯及ヒ言行ヲ錄セル書類ノ
世ニ出ル者甚タ多ク聖神ノ招キテ受ケサル所ノ人モ亦漫
ニ此事ヲ記シケレハ往々民間ノ風説及ヒ虚誕詐妄ノ想像
等ヲ載スルニ至レリ感神ノルカ大ニ之ヲ憂ヒイ、ス、ハ

リストスノ事ヲ錄スル諸書中特リ言ノ實見者及ヒ奉事者
ノ証明ヲ以テ確定シタル所ノ書ノミヲ選ミ其順序ヲ追フ
テ之ヲ述ント欲セシニ適々ローマノ顯官ヘテヒルノ求メ
テ受ケシカハ乃チ自ラ福音經ヲ著ス聖神ハ之ヲ以テ全世
界教會ノ訓導書ト爲セリ又古昔ノ教會先師ハ皆之ヲ証ノ
曰ク此ノ福音經ハ聖使徒パウロノ助ヲ以テ成レリト是言
以テ信ス可キニ似タリ何トナレハ其書中往々パウロノ語
ヲ記スルアレハ也此書ハルカマケドニヤノ某都ニ於テ之
ヲ著述セリ蓋パウロカコリノンフニ赴クノ途上マケドニヤ
ニ於テルカト相會スル前ニアリ此事ハアラビヤ譯書ノ花

押ヲ見シハ判然タリ此福音經ハ神使ガウリイルガ前驅者ノ誕生ヲ預言セシニ始リテイハスハハリストスノ昇天ニ終ル

ルカ福音經ヲ著シ後七年ヲ越テローマニ在テ又ヘテヒルノ爲メニ使徒行傳ヲ著セリ此書ハ福音經ノ次編ニシテ即イハスハカ聖父ヨリ遺シタル所ノ聖神ハイハスハハリストス昇天後諸使徒及ヒパウエルカ定立シ且大ニシタル教會ニ如何ニ行爲セシカヲ記セシ者ニシテ先ツ諸使徒最初ノ傳教及ヒ其傳教ヲ証スル所ノ奇蹟ヲ記シ次ニ諸使徒イエルサリムヨリ全世界ニ派出シ傳道スルニ至ルマテ教會ニ行ハレシ所

ノ著シキ事蹟ヲ記シ次ニ聖使徒パウエルカロロマニ在テ二年間桎梏ニ繋カレタル前ノ功績ヲ記セリ是ニ由テ之ヲ觀シハ聖ルカハイウデヤ人ノ頻リニ諸使徒ヲ譏言シ殊ニパウエルヲ誹謗セシ誣言ヲ辨駁排斥セント欲スル者ノ如シ

第四 使徒イヤコフノ公書

使徒アルハイノ子イヤコフハ操行方正ナルヲ以テ唯ハリステアニンノ爲メニ愛敬セララル、耳ヲラスイウデヤ人モ亦大ニ之ヲ尊敬セリ致命ノ二年前ニイエルサリムヨリパノステナ外ニ在ル所ノエウレ一信徒ニ公書ヲ遺シ抑其遺ル所以ハ各地方ニ於テ信者ヲ窘逐スルヲ甚シク且ツ使

徒パウエルカガラテヤ及ヒローマ人ニ遣シタル書中ニ信ヲ以テ義ヲ得ルコトノ教ヲ誤解シタルヲ以テ也使徒イヤコフノ書ニ曰クハリステアニンハ各喜テ困難ヲ忍ヒ且ツ耐久メ結果ヲ待タサルヘカラス又眞信ハ必美事善行ナカル可カラサル猶ホ体ノ靈ヲ離ル可ラサルカ如シト然レ此書中ニハ意味ノ順序連續セスシテ往々他ノ教訓アルヲ見ル例之ハ言語ノ節制(一ノ十九、二六)貧困者ヲ重スルコト(二ノ一ヨリ六マテ)驕傲ヲ擯クルコト(四ノ六ヨリ十一マテ)富者ヲ恐レシムル災禍ノコト(五ノ一ヨリ六マテ)誓約ノコト(十二節)祈禱ノコト(十三、十六、十八)膏ヲ塗ルコト(十四、十五)過ヲ改ムルコト(十六

節)等ノ如シ

第五 使徒パウエルノ書札

使徒パウエルハ書札ヲ爲ルコト十四也其中ローマ人ニ達スル者一コリント人ニ達スル者二ガラテヤ人ニ達スル者一エヘス人ニ達スル者一ヒリピ人ニ達スル者一コロス人ニ達スル者一フェサロニカ人ニ達スル者二テモフェイニ達スル者二テトニ達スル者一ヒリモンニ達スル者一エウレノ人ニ達スル者一也パウエルカ此書札ヲ爲ル或ハ第一囚前ニ書スルアリ或ハ囚中ニ書スルアリ或ハ第一囚後ニ書スルアリ或ハ最後ノ囚中ニ書スルアリ

甲第一 囚前ニ書スル者

第一 フエサロニカ人ニ達スル前書

フエサロニカハ或ハ之ヲソルト稱スマケドニヤ四州中ノ
首府ニソ其住人ハ即ローマ人グレチヤ人及ヒイウデヤ人
也使徒パウエル第二旅行ノ時ヒリツプヨリフエサロニカニ到
リ主日ニ會堂ニ於テ説教スルヲ己ニ三回ニ及ヘリ是ヲ以
テイウデヤ人及ヒ敬神ノ異邦人中ニハリストスヲ信スル
者ヲ獲ルヲ衆シ不信ノイウデヤ人ハ嫉妬ノ心ヲ生シパウ
エルニ向テ人民ヲ騷擾セシメタリシカハパウエルハシラト共
ニ夜間竊ニウエリヤニ走レリ此地ニ於テ又騷擾ニ遇ヒシカ

ハパウエル逃レテアヒンニ入り裁判廳ノ前ニ立テハリスト
スノ道ヲ説キタルニフエサロニカノハリストアニン等ハパ
ウエルカ敵人ノ爲メニ大ニ窘逐セラレシニ因リテモフェイチ
アヒンニ至ラシメシカハパウエル還タ之ヲフエサロニカニ歸
新立教會ヲ鞏固ニシ且ツ善ク信者ヲ悲傷ノ間ニ維持セシ
メ而シテ自ラコリンプニ赴ケリ其後テモフェイ復タシラト共
ニコリンプニ來リフエサロニカ教會ノ景狀ヲ報ソ曰クハリ
ストスヲ信スル者ハ堅ク爾ヨリ受ケシ法ヲ守リテ動カス
而シテ敵ノ爲メニ苦難ヲ受クルヲモ亦多シトパウエル乃チフェ
サロニカノ信者ニ第一書札ヲ遺リテ其教法ニ熱心ノ能ク